



取扱説明書

ColorEdge® PROMINENCE CG3146

HDR リファレンスモニター

このたびは当社HDRリファレンスモニターをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
ごぞいます。

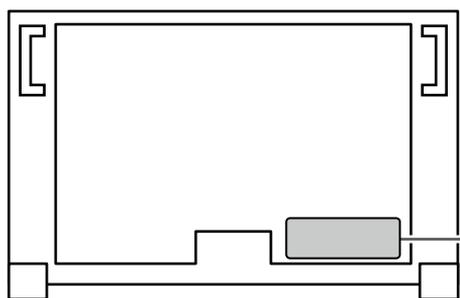
重要

ご使用前には必ずこの取扱説明書および使用上の注意をよくお読みになり、正しくお使いください。

- ・ モニターの設置 / 接続については、セットアップガイドを参照してください。
- ・ 取扱説明書およびドライバを含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。

www.eizo.co.jp

警告表示位置





WARNING
RISK OF ELECTRIC SHOCK. DO NOT OPEN.

AVERTISSEMENT
RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE. NE PAS OUVRIR.

WARNUNG
GEFAHR DES ELEKTRISCHEN SCHLAGES. RÜCKWAND NICHT ENTFERNEN.

警告
触电危険，请勿打开后盖。

警告
感電の恐れあり，カバーをあげないでください。

The equipment must be connected to a grounded main outlet.
L'appareil doit être relié à une prise avec terre.
Jordet stikkontakt skal benyttes når apparatet tilkobles datanett.
Apparaten skall anslutas till jordat nätuttag.
设备必须连接到接地的电源插座。
電源コードのアースは必ず接地してください。

製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の取扱説明書をご確認ください。

- 1.本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
- 2.本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3.本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- 4.本機の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

モニターについて

使用について

この製品は、色の再現性を重視する映像制作の用途に適しています。

この製品は、日本国内専用品です。日本国外での使用に関して、当社は一切責任を負いかねます。

This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

本書に記載されている用途以外での使用は、保証外となる場合があります。

本書に定められている仕様は、付属の電源コードおよび当社が指定する信号ケーブル使用時にのみ適用いたします。

この製品には、当社オプション品または当社が指定する製品をお使いください。

液晶パネルについて

液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で作られていますが、画素欠けや常時点灯する画素が見える場合がありますので、あらかじめご了承ください。なお、有効ドット数の割合は99.9994%以上です。

モニターの表示が安定するまでに、約3分（当社測定条件による）かかります。高精度の調整をおこないたい場合は、電源を入れて20分以上経過するまでお待ちください。

SDRのカラーモードとHDRのカラーモードを切り替える場合、モニターの調整はカラーモードを切り替えてから30分以上経過するまでお待ちください。

同じ画像を長時間表示することによって、表示を変えたときに前の画像が残像として見えることがあります。長時間同じ画像を表示するようなときには、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。表示する画像によっては、短い時間でも残像が見えることがあります。その場合、画像を変更したり、数時間電源を切った状態にすると、解消されることがあります。

表示状態を長時間続けると、表示面にシミやムラ、焼き付きが発生する場合がありますのでご注意ください。モニターを長くお使いいただくため、定期的にモニターの電源をオフにすることをおすすめします。電源をオフにする際は、モニター前面の電源ボタンを使用してください。

液晶パネルに使用されるバックライトには寿命があります。長時間連続使用など、ご使用状態によっては、バックライトの寿命が早まり、交換が必要となる場合があります。画面が暗くなったり、ちらついたり、点灯しなくなったときには、別紙「お客様ご相談窓口のご案内」に記載の窓口にお問い合わせください。

液晶パネル面や液晶パネルの外枠は強く押さないでください。強く押すと、干渉縞が発生するなど表示異常を起こすことがありますので取り扱いにご注意ください。また、液晶パネル面に圧力を加えたままにしておくと、液晶の劣化や、液晶パネルの破損などにつながる恐れがあります。（液晶パネルを押した跡が残った場合、画面全体に白い画像または黒い画像を表示すると解消されることがあります。）

液晶パネルを固い物や先のとがった物などで押したり、こすったりしないようにしてください。傷が付く恐れがあります。なお、ティッシュペーパーなどで強くこすっても傷が入りますのでご注意ください。

設置について

この製品を冷え切った状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、製品の表面や内部に露が生じることがあります（結露）。結露が生じた場合は、結露がなくなるまで製品の電源を入れずにお待ちください。そのまま使用すると故障の原因となることがあります。

ラッカー系の塗料を使用した机にこの製品を置くと、スタンドの底面に使用しているゴムの成分により、色が付着する場合があります。ご使用前にご確認ください。

メンテナンスについて

この製品を美しく保ち、長くお使いいただくためにも定期的にクリーニングをおこなうことをおすすめします（「[クリーニングの仕方](#)」（P.4）参照）。

この製品の性能向上などのためにモニター内部のソフトウェア（ファームウェア）の更新プログラムが提供される場合があります。当社Webサイト（www.eizo.co.jp）の「サポート」から「ソフトウェア&ドライバ」を選択し、製品名を入力して検索してください。

クリーニングの仕方

キャビネットや液晶パネル面の汚れは、付属の「ScreenCleaner」を使用して、やさしくふき取ってください。

注意点

- ・アルコール、消毒薬などの薬品は、キャビネットや液晶パネル面の光沢の変化、変色、色あせ、画質の劣化などにつながる恐れがあります。
 - ・シンナー、ベンジン、ワックス、研磨クリーナーは、キャビネットや液晶パネル面をいためるため絶対に使用しないでください。
-

モニターを快適にご使用いただくために

- ・画面が暗すぎたり、明るすぎたりすると目に悪影響をおよぼすことがあります。状況に応じてモニター画面の明るさを調整してください。
- ・長時間モニター画面を見続けると目が疲れますので、1時間に約10分の休憩を取ってください。

目次

モニターについて.....	3	第4章 SelfCalibration	36
クリーニングの仕方.....	4	4-1. SelfCalibrationの各機能.....	37
モニターを快適にご使用いただくために	4	4-2. 目標を設定する	39
目次	5	4-3. 実行する	39
第1章 はじめに.....	7	● スケジュールに関係なく実行する	39
1-1. 特長.....	7	● スケジュールを設定して実行する	39
● 映像制作に強い、4K高解像度の大型液晶を搭載.....	7	● Standard ModeでSelfCalibrationを有効にする.....	39
● HDR（ハイダイナミックレンジ）映像の表示をサポート.....	7	● Advanced ModeでSelfCalibrationを有効にする.....	40
● 長距離伝送が可能な、SDI信号をサポート.....	7	4-4. 結果を確認する	40
● 自動的に最適なカラー設定に切り替えるモードを搭載.....	7	第5章 カスタムキーの設定.....	41
● カラーグレーディング作業をサポートする多彩な機能を搭載	8	5-1. カスタムキーの基本操作方法	41
● USBハブ機能を搭載	8	5-2. カスタムキーの割り当て方法	41
1-2. 各部の名称と機能.....	9	● カスタムキーに割り当てられる機能.....	44
● 前面	9	第6章 Pixel Inspection.....	45
● 背面	10	6-1. 座標を指定する	45
第2章 基本の設定	12	6-2. Pixel Inspectionを実行する.....	46
2-1. 入力信号を切り替える	12	第7章 管理者向け設定	47
2-2. 表示モード（カラーモード）を切り替える...12		7-1. 「管理者設定」メニューの基本操作方法.....	47
● モードの種類.....	13	7-2. 「管理者設定」メニューの各機能.....	48
● カラーモードの設定値	14	第8章 SDR / HDR設定	49
2-3. Quick Check機能を利用する.....	15	8-1. 各カラーモードについて.....	49
第3章 詳細な調整 / 設定	16	● 映像制作用途で使用するカラーモードの種類と用途.....	49
3-1. 設定メニューの基本操作方法	16	● BT.2020	50
3-2. 設定メニューの各機能	18	● BT.709.....	51
● 信号設定	18	● DCI-P3.....	52
● カラー調整.....	20	● PQ_BT.2100.....	53
● SelfCalibration.....	27	● PQ_DCI-P3.....	54
● スクリーン	28	● HLG_BT.2100	55
● 本体設定.....	32	8-2. 設定手順	56
● 言語選択.....	35	● 設定項目一覧.....	59
● インフォメーション.....	35	8-3. ColorNavigator 7を使用した設定方法.....	60
		● 設定手順.....	60
		● ColorNavigator 7の目標設定	60

第9章	トラブルシューティング	62
9-1.	画面が表示されない場合	62
9-2.	画面に関する症状	63
9-3.	SelfCalibrationに関する症状	64
9-4.	その他の症状	65
第10章	ご参考に	66
10-1.	取付器具に取り付ける	66
10-2.	複数の外部機器を接続する	68
10-3.	USBハブ機能の使用方法	69
●	接続方法	69
10-4.	仕様	70
●	オプション	71
付録		72
	商標	72
	ライセンス	72
	アフターサービス	73

第1章 はじめに

この章では、モニターの特長と、各部の名称を説明します。

1-1. 特長

● 映像制作に強い、4K高解像度の大型液晶を搭載

- ・ 31.1型ワイド画面にDCI 4K解像度（4096×2160）対応
デジタルシネマ規格であるDCI 4K解像度4096×2160に対応しています。また、フルHDの4倍を超える高解像度で、4K映像だけでなく、フルHD解像度のコンテンツを複数並べて表示できます。
- ・ 広色域表示で映像の色味を忠実に再現
99%のDCIカバー率を実現し、高精度のカラーマネジメント環境を構築できます。
- ・ 1,000,000 : 1^{*1}の高コントラスト比を実現
高コントラスト比で、引き締まった黒色を表示できます。
※1 標準値。保証値ではありません。
- ・ 水平 / 垂直178° の広視野角なIPS液晶パネルを搭載

● HDR（ハイダイナミックレンジ）映像の表示をサポート

- ・ 映画や放送向け、HDR国際標準規格に準拠
配信、映画制作向けのHDR「PQ方式」と放送向けのHDR「Hybrid Log Gamma（ハイブリッドログガンマ）方式」の両方に対応しています。「PQ方式」は、HDRの国際標準規格であるITU-R BT.2100^{*2}およびSMPTE ST2084^{*3}に、「Hybrid Log Gamma方式」はITU-R BT.2100に準拠しています。これにより、映画作品や放送コンテンツなど幅広いHDRコンテンツのカラーグレーディング作業に活用できます。
※2 ITU-Rは、International Telecommunication Union-Radio communication Sector（国際電気通信連合の無線通信部門）です。
※3 SMPTEは、Society of Motion Picture and Television Engineers（米国映画テレビ技術者協会）です。
- ・ 高輝度 / 高コントラスト比を実現
専用のIPS液晶パネルと高輝度バックライトユニットの搭載により、高輝度 / 高コントラスト比を実現しています。
- ・ カラーモード機能を搭載
ITU-R BT.2100などで定められた色温度、ガンマ、色域を再現できます。
「カラーモード」（P.21）参照

● 長距離伝送が可能な、SDI信号をサポート

- ・ SDI入力端子を搭載
12G-SDI信号まで対応したSDI入力端子を1つと、3G-SDI信号まで対応したSDI入力端子を3つ搭載しています。
- ・ スルー出力（アクティブ）に対応したSDI出力端子を搭載

● 自動的に最適なカラー設定に切り替えるモードを搭載

- ・ カラーモード「SYNC_SIGNAL」
入力信号に合わせてモニターのカラー設定を自動的に最適な値に設定できるカラーモード（SYNC_SIGNAL）を搭載しています。このモードを使用すると、入力信号がSDRからHDRに切り替わった場合、モニターのカラー設定が自動的にHDRに適したカラー設定に切り替わるため、手動でのカラー設定が不要になります。

● カラーグレーディング作業をサポートする多彩な機能を搭載

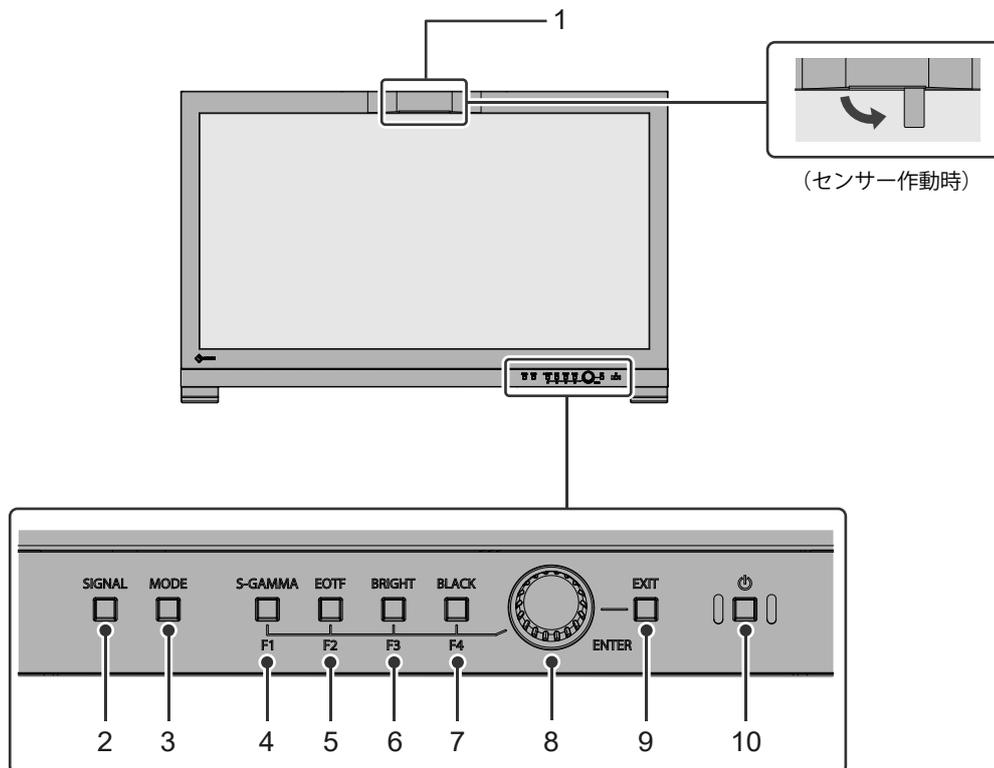
- 色域外警告機能、輝度警告機能など、映像制作専用機能を搭載
「第3章 詳細な調整 / 設定」 (P.16) 参照
- 4Kズーム機能を搭載
4K2K信号（解像度が4096×2160または3840×2160の信号）を画面に表示している場合、指定した領域を2倍に拡大表示することができます。映像の細部を確認するときなどに便利です。
「ズーム」 (P.29) 参照
- 任意に設定可能なカスタムキー機能を搭載
モニター前部にあるボタンに頻繁に使用する機能を割り当てることで、作業効率を向上できます。
「第5章 カスタムキーの設定」 (P.41) 参照
- Quick Check機能を搭載
輝度やガンマを一時的に変更した信号確認が可能なQuick Check機能が利用できます。
- HDCP（著作権保護技術）により保護されたコンテンツを表示可能
- 遮光フードを標準で付属
照明の映り込みなどの外光反射を効果的に防ぐことができる遮光フードを付属しています。遮光フードはマグネット式で、簡単に着脱することができます。
- SelfCalibration機能を搭載
内蔵キャリブレーションセンサーを搭載し、SelfCalibration（セルフキャリブレーション）によるモニター単独でのキャリブレーションに対応しています。
「第4章 SelfCalibration」 (P.36) 参照

● USBハブ機能を搭載

- USB 3.1 Gen 1に対応
最大5Gbpsの高速データ転送を実現し、USBメモリーなどの大容量データも短時間で転送できます。
また、USBダウンストリームポートの  ポートは急速充電にも対応し、短時間でスマートフォンやタブレットを充電することができます。
「10-3. USBハブ機能の使用方法」 (P.69) 参照、 「USB CHARGE ポート」 (P.32) 参照

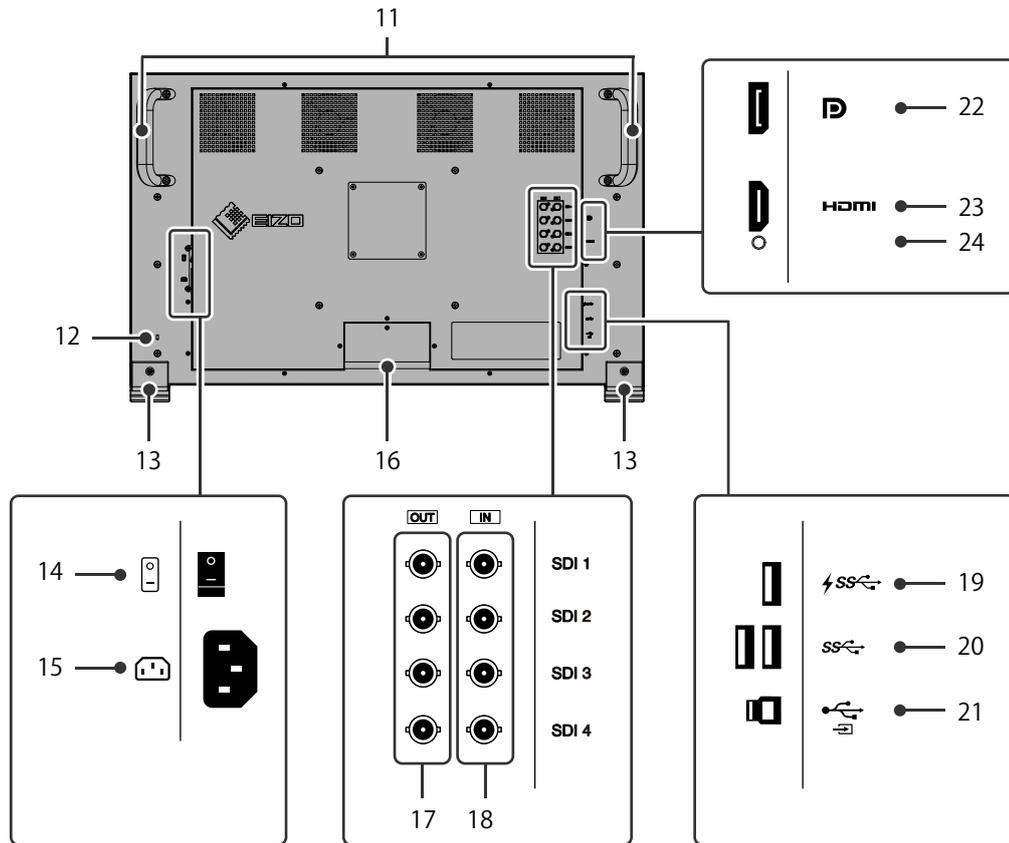
1-2. 各部の名称と機能

● 前面



1. 内蔵キャリブレーションセンサー	モニターのキャリブレーションをおこなうためのセンサーです。SelfCalibration（セルフキャリブレーション）を実行すると、キャリブレーションセンサーが自動的に作動し、定期的にモニターを調整できます（P.36）。
2.  (SIGNAL) ボタン	入力信号を切り替えます。
3.  (MODE) ボタン	カラーモードを切り替えます。
4.  (S-GAMMA (F1)) ボタン	ボタンに割り当てた機能を実行します。 機能の設定に応じてランプの色が変化します。
5.  (EOTF (F2)) ボタン	青 : Quick Check機能が有効
6.  (BRIGHT (F3)) ボタン	白 : Quick Check機能が無効
7.  (BLACK (F4)) ボタン	消灯 : Quick Check機能以外が割り当てられている
8. 調整ダイヤル	左右に回して設定メニューの項目を選択したり、設定値を調整したりします。 調整ダイヤルを押すと、設定メニューが表示されます。各メニューの表示後は、調整ダイヤルを押して決定します。
9.  (EXIT) ボタン	ひとつ前の画面に戻ります。
10. 電源ボタン	電源のオン/オフを切り替えます。 電源を入れると、ランプが点灯します。 モニターの動作状態に応じてランプの色が変化します。 白 : 通常動作モード 橙 : 省電力モード 消灯 : 電源オフ

● 背面



11. 運搬ハンドル	運搬用のハンドルです。 注意点 ・ 運搬時には2人でハンドルと画面の下部をしっかりと持ち、モニターを落とさないようご注意ください。
12. 盗難防止用ロック	Kensington社製のMicroSaverセキュリティシステムに対応していません。
13. スタンド	高さや角度の調整はできません。
14. 主電源スイッチ	主電源のオン/オフを切り替えます。 : オン ○ : オフ
15. 電源コネクタ	電源コードを接続します。
16. ケーブルホルダー	ケーブルを収納します。 注意点 ・ 運搬時にケーブルホルダーを持たないでください。ケーブルホルダーが破損し、けがや故障の原因となります。
17. SDI出力端子 (BNC型)	SDI入力端子に入力された信号がそのまま出力されます。 SDI 1は、12G / 6G / 3G / HD-SDIに対応しています。 SDI 2、SDI 3、SDI 4は、3G / HD-SDIに対応しています。 注意点 ・ この製品はスルー出力 (アクティブ) に対応しています。信号を出力する場合はモニターの主電源をオンにしてください。
18. SDI入力端子 (BNC型)	SDI出力端子のある機器を接続します。 SDI 1は、12G / 6G / 3G / HD-SDIに対応しています。 SDI 2、SDI 3、SDI 4は、3G / HD-SDIに対応しています。
19. USB Type-Aコネクタ (USB ダウンストリームポート、 急速充電対応)	USBに対応している周辺機器と接続できます (P.32) 。

20. USB Type-Aコネクタ (USB ダウンストリームポート)	USBに対応している周辺機器と接続できます。
21. USB Type-Bコネクタ (USB アップストリームポート)	USB接続が必要なソフトウェア、USBハブ機能を使用する場合にUSBケーブルを接続します (P.69)。
22. DisplayPortコネクタ	DisplayPort出力のある外部機器を接続します。
23. HDMIコネクタ	HDMI出力のある外部機器を接続します。
24. HDMIケーブル用クランプ固定穴	HDMIケーブル用クランプを固定します。

第2章 基本の設定

この章では、モニター前面のボタンを押すことで設定できる基本の機能を説明します。

設定メニューを使って詳細に調整/設定する方法については、「第3章 詳細な調整/設定」(P.16)を参照してください。

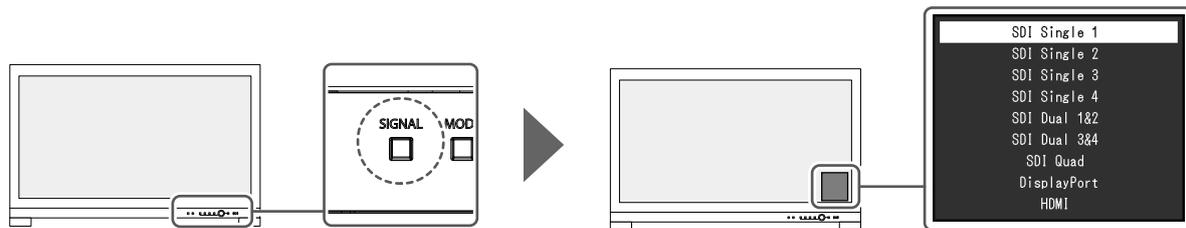
2-1. 入力信号を切り替える

モニターに複数の信号を入力している場合、画面に表示する信号を切り替えることができます。

SIGNAL

(SIGNAL) ボタンを押し、入力信号を選択するメニューを表示します。

調整ダイヤルを回して表示したい入力信号を選択し、調整ダイヤルを押して確定します。



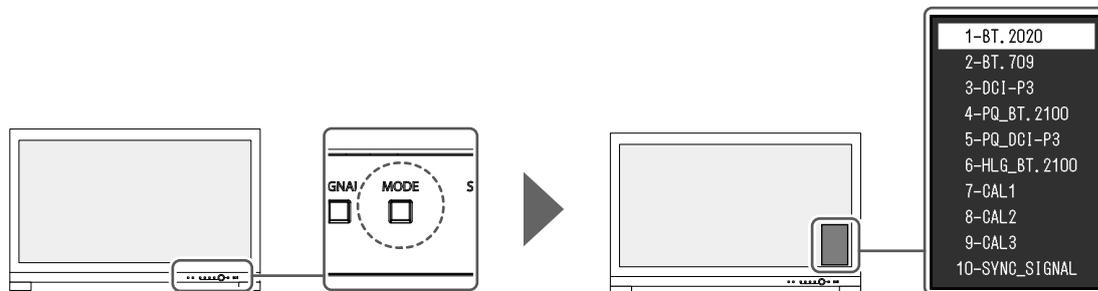
2-2. 表示モード (カラーモード) を切り替える

モニターの用途に応じた表示モードに簡単に切り替えることができます。

MODE

(MODE) ボタンを押し、カラーモードを選択するメニューを表示します。

調整ダイヤルを回して表示したいカラーモードを選択し、調整ダイヤルを押して確定します。



● モードの種類

カラーモード	目的
Standard Mode	モニターの設定メニューを使用して色の調整をおこなうモードです。
BT.2020	各カラーモードにおける詳細な設定値については、「 カラーモードの設定値 」(P.14)を参照してください。
BT.709	
DCI-P3	
PQ_BT.2100	
PQ_DCI-P3	
HLG_BT.2100	
SYNC_SIGNAL	
Advanced Mode	モニターのSelfCalibration機能、カラーマネージメントソフトウェア「ColorNavigator 7」を使用して、モニターの表示調整をおこなうモードです。
CAL1	SelfCalibration、ColorNavigator 7による調整状態で表示します。
CAL2	
CAL3	

参考

- SDRのカラーモード (BT.2020、BT.709、およびDCI-P3) とHDRのカラーモード (PQ_BT.2100、PQ_DCI-P3、およびHLG_BT.2100) を切り替える場合、モニターの調整はカラーモードを切り替えてから30分以上経過するまでお待ちください。

● カラーモードの設定値

—：変更不可

項目	カラーモード								
	BT.2020	BT.709	DCI-P3	PQ BT.2100	PQ DCI-P3	HLG BT.2100	CAL1/ CAL2/ CAL3	SYNC SIGNAL	
輝度 (cd/m ²)	100	100	48	1000	1000	1000	—	100* ¹	
色温度	D65	D65	D65	D65	D65	D65	—	D65	
ガンマ (EOTF)	2.4	2.4	2.6	PQ	PQ	HLG	—	2.4* ¹	
PQ オプション	—	—	—	1000 cd/m ² Clipping	1000 cd/m ² Clipping	—	—	—	
HLGシステムガンマ	—	—	—	—	—	1.2	—	—	
色域	BT.2020	BT.709	DCI	BT.2020	DCI	BT.2020	—	BT.709* ¹	
詳細 設定	色相	0	0	0	0	0	—	0	
	彩度	0	0	0	0	0	—	0	
	色域クリッピング	オン	オン	オン	オン	オン	オン	オン	
	XYZフォーマット	—	—	オフ	—	オフ	—	—	
	ゲイン	Red	色温度から算出					—	色温度か ら算出
		Green						—	
		Blue						—	
	黒レベ ル	オール	0	0	0	0	0	—	0
		Red	0	0	0	0	0	—	0
		Green	0	0	0	0	0	—	0
Blue		0	0	0	0	0	—	0	
6色	Magenta	色相	0	0	0	0	0	—	0
		彩度	0	0	0	0	0	—	0
		明度	0	0	0	0	0	—	0
	Red	色相	0	0	0	0	0	—	0
		彩度	0	0	0	0	0	—	0
		明度	0	0	0	0	0	—	0
	Yellow	色相	0	0	0	0	0	—	0
		彩度	0	0	0	0	0	—	0
		明度	0	0	0	0	0	—	0
	Green	色相	0	0	0	0	0	—	0
		彩度	0	0	0	0	0	—	0
		明度	0	0	0	0	0	—	0
Cyan	色相	0	0	0	0	0	—	0	
	彩度	0	0	0	0	0	—	0	
	明度	0	0	0	0	0	—	0	
Blue	色相	0	0	0	0	0	—	0	
	彩度	0	0	0	0	0	—	0	
	明度	0	0	0	0	0	—	0	

※1 入力信号に応じて自動的に設定されます。入力信号から値を取得できない場合は表中の値が設定されま
す。

参考

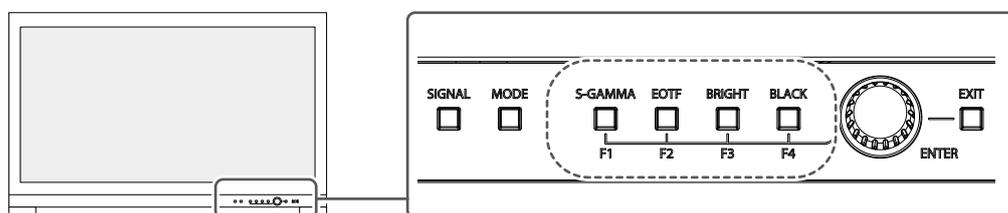
- CAL1 / CAL2 / CAL3は、ColorNavigator 7を使用して設定します。モニター本体の設定メニューでは変更できません。
- カラーモードは、入力信号ごとに設定されます。
- 各項目の詳細は、「[カラー調整](#)」(P.20)を参照してください。
- 特定のモードを選択できないようにすることができます。詳細は、「[モードスキップ](#)」(P.33)を参照してください。

2-3. Quick Check機能を利用する

一時的にHLGシステムガンマ、ガンマ (EOTF)、輝度、黒レベルリフトを変更する機能です。

1. Quick Checkの実行

1. 設定値を一時的に変更して確認したい項目 (HLGシステムガンマ：、ガンマ (EOTF)：、輝度：、黒レベルリフト：) のボタンを押します。



Quick Checkが実行されます。

2. 設定

1. 各ボタンで調整 / 設定し、調整ダイヤルを押して確定します。
設定値が一時的に変更されます。

参考

- (S-GAMMA)、 (EOTF)、 (BRIGHT)、 (BLACK) のいずれかのボタンが青く点灯している場合は、Quick Checkが実行中です。

3. Quick Checkの解除

1. (S-GAMMA)、 (EOTF)、 (BRIGHT)、 (BLACK) で青く点灯しているボタンを押します。
設定値が変更前の状態に戻ります。

参考

- 次の操作でもQuick Checkが解除されます。
 - 主電源スイッチおよび電源ボタンによる電源のオフ / オン
 - 入力信号、カラーモードの切り替え
 - 「カラー調整」メニューの「リセット」を実行
 - 「本体設定」メニューの「オールリセット」を実行
 - SelfCalibrationの実行
 - ColorNavigator 7を起動
 - カスタムキーの割り当てをQuick Check機能以外に変更（「[5-2. カスタムキーの割り当て方法](#)」(P.41) 参照）
 - HLGシステムガンマ、ガンマ (EOTF)、輝度、黒レベルリフトを設定メニューから変更

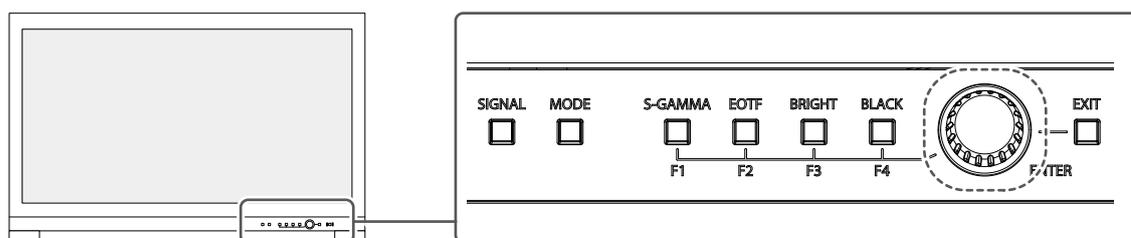
第3章 詳細な調整 / 設定

この章では、設定メニューを使ってモニターを詳細に調整 / 設定する方法を説明します。モニター前面のボタンで設定できる基本的な機能については、「第2章 基本の設定」(P.12)を参照してください。

3-1. 設定メニューの基本操作方法

1. メニューの表示

1. 調整ダイヤルを押します。



設定メニューが表示されます。



2. 調整 / 設定

1. 調整ダイヤルを回して、調整 / 設定したいメニューを選択し、調整ダイヤルを押します。
サブメニューが表示されます。

カラー調整 (BT. 2020)		
カラーモード	[BT. 2020]
輝度	[100cd/m2]
色温度	[6500K]
ガンマ (EOTF)	[2.2]
PQ オプション	[-]
HLGシステムガンマ	[-]
色域	[BT. 2020]
詳細設定		
リセット		

- 調整ダイヤルを回して、調整 / 設定したい項目を選択し、調整ダイヤルを押します。
調整 / 設定メニューが表示されます。



- 調整ダイヤルを回して、調整 / 設定し、調整ダイヤルを押して確定します。
サブメニューが表示されます。
調整 / 設定中に (EXIT) ボタンを押すと、調整 / 設定を中止して変更前の状態に戻ります。

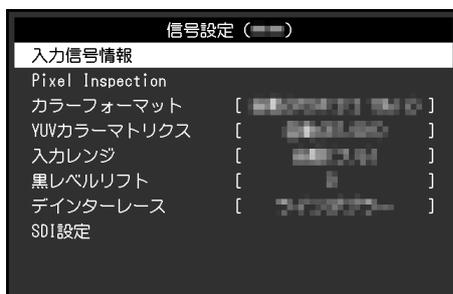
3. 終了

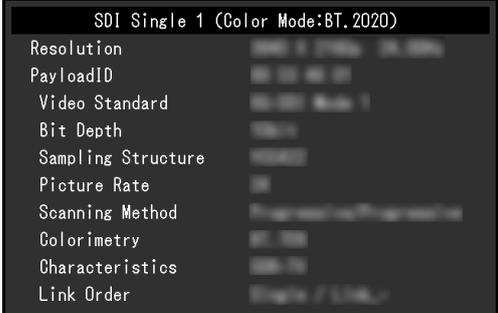
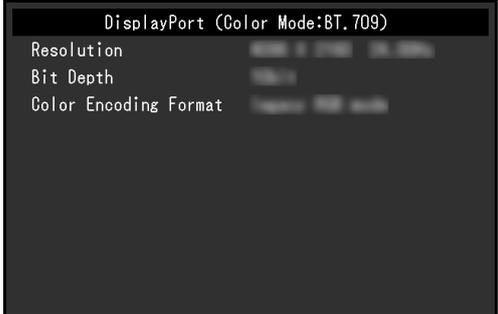
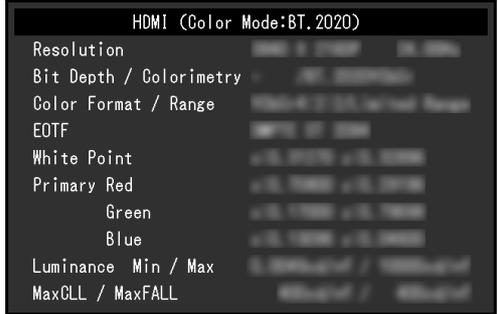
- (EXIT) ボタンを押します。
設定メニューが表示されます。
- (EXIT) ボタンを押します。
設定メニューが終了します。

3-2. 設定メニューの各機能

● 信号設定

カラーフォーマットや入力レンジなど、入力信号の詳細を設定します。



機能	設定値	説明
入力信号情報	—	<p>入力信号の情報を確認できます。入力信号によって表示される情報が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> SDIの場合  <ul style="list-style-type: none"> DisplayPortの場合  <ul style="list-style-type: none"> HDMIの場合 

機能	設定値	説明
Pixel Inspection (ファームウェアバージョン 10006-xxxxx-xxxxx 以降のみ)	—	「第6章 Pixel Inspection」 (P.45) を参照してください。
カラーフォーマット	自動 YUV 4:2:2 ^{※1} YUV 4:4:4 ^{※1} YUV ^{※2} RGB ^{※1※2} YCC4:2:2 10bit ^{※3} YCC4:2:2 12bit ^{※3} YCC4:4:4 10bit ^{※3} YCC4:4:4 12bit ^{※3} RGB4:4:4 10bit ^{※3} RGB4:4:4 12bit ^{※3}	入力信号のカラースペースを指定できます。 正しい色が表示できない場合に、設定を変更してみてください。 通常は、「自動」を選択してください。SDI信号を入力した場合は、カラーフォーマットでビット深度の指定を行います。 ビット深度の指定を誤った場合は、信号エラーが表示されません。

※1 HDMI入力の場合のみ有効

※2 DisplayPort入力の場合のみ有効

※3 SDI入力の場合のみ有効。設定値を入力信号に反映するには調整ダイヤルを押して確定する必要があります。

機能	設定値	説明
YUVカラーマトリクス	自動 BT.601 BT.709 BT.2020	入力信号のYUV形式を選択します。入力信号の問題で階調潰れなど正しく画像が表示できない場合に使用します。
入力レンジ	自動 フル リミテッド (109% 白) リミテッド SDIフル	外部機器によっては、モニターに出力する信号のビデオレベルの黒および白が制限されていることがあります。制限されたままモニターに信号を表示すると、黒が淡く、白がくすんで表示され、コントラストが低下します。このような信号を、モニター本来のコントラスト比になるように、輝度レンジを拡張して表示することができます。 <ul style="list-style-type: none"> 「自動」 入力信号の輝度レンジを自動的に判別し、適切に表示します。 「フル」 入力信号の輝度レンジの拡張をおこないません。 「リミテッド (109% 白)」 入力信号の輝度レンジを16~254 (10ビット：64~1019) から0~255 (10ビット：0~1023) に拡張して表示します。 「リミテッド」 入力信号の輝度レンジを16~235 (10ビット：64~940) から0~255 (10ビット：0~1023) に拡張して表示します。 「SDIフル」 入力信号の輝度レンジを1~254 (10ビット：4~1019) から0~255 (10ビット：0~1023) に拡張して表示します。
黒レベルリフト	-500~500	入力信号の白のビデオレベルを変化させずに、黒のビデオレベルを変更します。
デインターレース	ノーマル ラインダブル	IP変換の方式を選択します。通常、「ノーマル」から変更する必要はありません。

機能		設定値	説明
SDI設定	タイムコード設定	タイムコード フォーマット 位置 サイズ	タイムコードの設定ができます。 <ul style="list-style-type: none"> タイムコード この機能を「オン」に設定すると、タイムコードが表示され ます。 フォーマット タイムコードのフォーマットを「VITC」または「LTC」から選 択します。 位置 タイムコードの表示位置を「上」または「下」から選択しま す。 サイズ タイムコードの大きさを「小」または「大」から選択します。
	Interlace / PsF	自動 Interlace PsF	プログレッシブ以外のSDI信号が入力された場合の表示方式を設定で きます。

● カラー調整

選択しているカラーモードによって設定内容が異なります。

カラーモードがStandard Mode (BT.2020 / BT.709 / DCI-P3 / PQ_BT.2100 / PQ_DCI-P3 / HLG_BT.2100 / SYNC_SIGNAL) の場合

各カラーモードのカラー設定を、お好みにあわせて調整できます。

カラー調整 (BT.2020)		詳細設定 (BT.2020)	
カラーモード	[BT.2020]	色相	[0]
輝度	[100cd/m2]	彩度	[0]
色温度	[6500K]	色域クリッピング	[オフ]
ガンマ (EOTF)	[2.2]	XYZフォーマット	[オフ]
PQ オプション	[-]	ゲイン	
HLGシステムガンマ	[-]	黒レベル	
色域	[BT.2020]	6色	
詳細設定			
リセット			

注意点

- モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色を合わせるときは、視覚的に判断しながら微調整してください。

参考

- 「カラーモード」が「SYNC_SIGNAL」の場合、「輝度」「ガンマ (EOTF)」「色域」は入力信号に応じて自動的に設定され、変更できません。
- 「cd/m²」、「K」表示は調整の目安としてご利用ください。

機能	設定値	説明
カラーモード	BT.2020 BT.709 DCI-P3 PQ_BT.2100 PQ_DCI-P3 HLG_BT.2100 CAL1 CAL2 CAL3 SYNC_SIGNAL	<p>モニターの用途に応じた表示モードに切り替えます。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 各モードの切り替え方法は、「2-2.表示モード（カラーモード）を切り替える」（P.12）を参照してください。 「CAL1 / CAL2 / CAL3」については、P.25を参照してください。
輝度	48 cd/m ² ～1000 cd/m ²	<p>バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定できない値が選択されている場合は、値がマゼンタで表示されます。値を変更してください。 48 cd/m²～300 cd/m²の間は1刻みで、300 cd/m²～1000 cd/m²の間は100刻みで設定できます。
色温度	Native 4000 K ～10000 K D50 D65 D65(CRT) DCI User	<p>色温度を調整します。</p> <p>「白」の色度を表現するとき用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。</p> <p>炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。</p> <p>100K単位で色温度値を設定するか、規格名を選択します。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Native」を選択すると、液晶パネル本来の色で表示されます。 「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です。ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。 色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。
ガンマ (EOTF)	1.6～2.7 sRGB EBU(2.35) PQ HLG	<p>ガンマ値を調整します。</p> <p>モニターは入力される信号によって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。</p> <p>ガンマ値を設定するか、規格名を選択します。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 「HLG」を選択すると「HLGシステムガンマ」を設定する必要があります。

機能	設定値	説明
PQ オプション	300 cd/m ² Clipping 500 cd/m ² Clipping 1000 cd/m ² Clipping 4000 cd/m ² Emulation 10000 cd/m ² Emulation	<p>モニターに入力されたPQ信号に対して、ここで設定した値以上の輝度をもつ領域を、この設定値でクリップまたはエミュレーションして表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 300 cd/m² Clipping 最大輝度が300 cd/m²のモニターでの表示を確認するための設定です。637 (10ビット) 以上の階調はクリップされます。 • 500 cd/m² Clipping 最大輝度が500 cd/m²のモニターでの表示を確認するための設定です。693 (10ビット) 以上の階調はクリップされます。 • 1000 cd/m² Clipping 輝度を1000 cd/m²に設定すると正しく表示されます。770 (10ビット) 以上の階調はクリップされます。 • 4000 cd/m² Emulation モニターの輝度が4000 cd/m²のときに正しく表示される設定です。このモニターでは4000 cd/m²は表示できないため、一時的な確認のために使用する設定です。全階調がエミュレーションされます。924 (10ビット) 以上の階調はクリップされます。 • 10000 cd/m² Emulation モニターの輝度が10000 cd/m²のときに正しく表示される設定です。このモニターでは10000 cd/m²は表示できないため、一時的な確認のために使用する設定です。全階調がエミュレーションされます。 <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ガンマ (EOTF)」で「PQ」を指定している場合に設定できます。 • クリップまたはエミュレーションされた領域を確認することができます。詳細は、「輝度警告」(P.30)を参照してください。 • それぞれの設定の場合の入力と出力の関係は「PQ オプションの設定と表示」(P.23)を参照してください。
HLGシステムガンマ	1.0~1.5	<p>モニターに入力されたHLG信号に対するシステムガンマ値を調整します。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ガンマ (EOTF)」で「HLG」を指定している場合に設定できます。
色域	Native Adobe®RGB sRGB EBU BT.709 BT.2020 SMPTE-C DCI-P3	<p>モニターの色再現域(色域)を設定します。表現できる色の範囲を「色域」といい、複数の規格が定義されています。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「Native」を選択すると、液晶パネル本来の色域で表示されます。 • 定義された色域のうち、モニターが表示できない範囲の色の表示方法を設定することができます。詳細は、「色域クリッピング」(P.24)を参照してください。

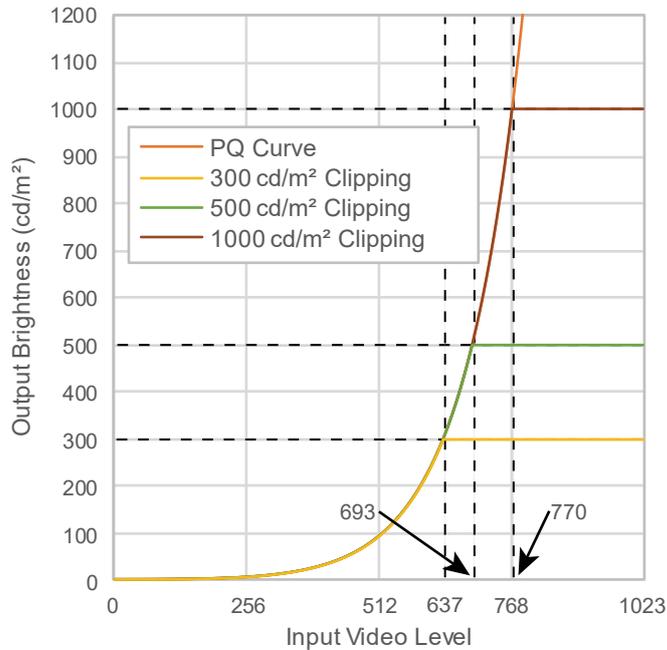
PQ オプションの設定と表示

PQ オプションの設定、入力信号（10ビット：0～1023）、およびモニターに表示される輝度の関係を示します。

参考

- フルレンジの入力信号、および「信号設定」の「入力レンジ」は「フル」に設定されている場合を想定しています。

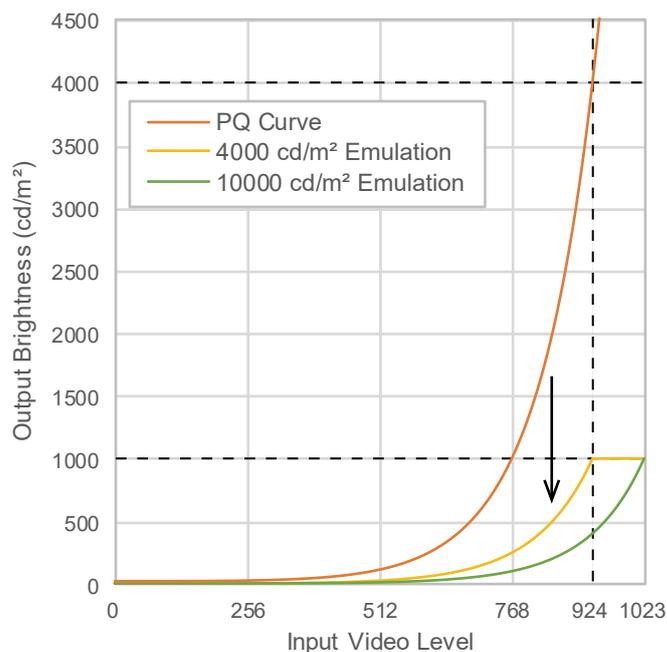
● 300 cd/m² Clipping、500 cd/m² Clipping、1000 cd/m² Clippingの場合



- 輝度を指定した値に設定すると正しく表示されます。

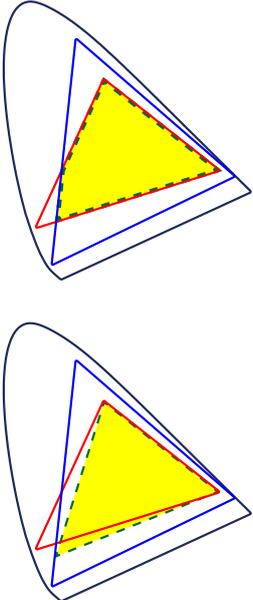
- 例：PQ オプションを300 cd/m² Clippingに設定した場合は、モニターの輝度を300 cd/m²に設定します。

● 4000 cd/m² Emulation、10000 cd/m² Emulationの場合（モニターの設定輝度：1000 cd/m²）



- このモニターでは一時的な確認のために使用する設定です。

- 例：PQ オプションを4000 cd/m² Emulationに設定した場合は、最大輝度が4000 cd/m²のモニターと同等の階調表現になります。このモニターは最大輝度が4000 cd/m²以下のため、モニターの設定輝度まで輝度が下がった状態での階調表現になります。

	機能	設定値	説明
詳細設定	色相	-100~100	色相を調整します。 参考 <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
	彩度	-100~100	彩度を調整します。 参考 <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。 最小値 (-100) で白黒の画面となります。
	色域クリッピング	オン オフ	<p>「色域」(P.22) で設定した色域のうち、モニターが表示できない範囲の色の表示方法を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「オン」 モニターが表示できる範囲の色は、規格に合わせて正確に表示します。表示できない範囲の色は飽和します。 「オフ」 色の正確性よりも、階調性を重視して表示します。規格で定義された色域の頂点を、モニターが表示できる範囲に移動します。これにより、モニターが表示できる最も近い色で表示します。 <div style="text-align: center;">  <p> — モニターが表示できる色域 — 規格で定義された色域 - - - 画面に表示する色域 </p> </div> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 上図は概念図であり、製品の実際の色域を示すものではありません。 この設定は「色域」(P.22) で「Native」を選択すると無効になります。
XYZフォーマット	オン オフ	この機能を「オン」に設定すると、デジタルシネマ用のXYZ信号をモニターに表示できます。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 「色域」(P.22) が「DCI-P3」に設定されている場合のみ設定できます。 「オン」を選択すると、「色域」の設定ができなくなります。 	
	ゲイン	0~2000	色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色度を変更することができます。 参考 <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。 色温度の値に応じてゲインの値が変わります。 ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。

機能	設定値	説明	
詳細設定	黒レベル	0~1500	赤、緑、青のそれぞれ、またはすべての黒レベルを調整することにより、黒の明るさ、色度を調整します。黒いテストパターンまたは背景を表示して黒レベルを調整してください。
	6色	-100~100	Magenta、Red、Yellow、Green、Cyan、Blueの色相、彩度、および明度（明るさ）を個別に調整します。
リセット	—	現在選択しているカラーモードのカラー調整値を初期設定に戻します。	

カラーモードがAdvanced Mode（CAL1 / CAL2 / CAL3）の場合

SelfCalibrationの目標設定およびキャリブレーション実行ができます。



機能	設定値	説明	
カラーモード	BT.2020 BT.709 DCI-P3 PQ_BT.2100 PQ_DCI-P3 HLG_BT.2100 CAL1 CAL2 CAL3 SYNC_SIGNAL	モニターの用途に応じた表示モードに切り替えます。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 各モードの切り替え方法は、「2-2. 表示モード（カラーモード）を切り替える」(P.12)を参照してください。 「BT.2020 / BT.709 / DCI-P3 / PQ_BT.2100 / PQ_DCI-P3 / HLG_BT.2100」については、P.20を参照してください。 	
目標設定	輝度	Min 48 cd/m ² ~1000 cd/m ² Max	SelfCalibrationの調整目標となる輝度を設定します。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 48 cd/m²~300 cd/m²の間は1刻みで、300 cd/m²~1000 cd/m²の間は100刻みで設定できます。
	黒レベル	Min 0.2~3.5	SelfCalibrationの調整目標となる黒レベルを設定します。
	白色点	色温度 4000 K~10000 K User D50 D65 D65(CRT) DCI-P3	SelfCalibrationの調整目標となる白色点を設定します。白色点は、色座標（White(x) / White(y)）または色温度で指定します。色座標を指定する場合は、「White(x)」および「White(y)」でそれぞれの値を設定します。色温度を指定する場合は、100K単位で色温度値を設定するか、各規格に準拠した色温度を選択します。
	White(x) / White(y)	0.2400 ~0.4500	参考 <ul style="list-style-type: none"> 色座標を指定すると、色温度は「User」になります。

機能		設定値	説明
目標設定	ガンマ (EOTF)	ガンマ (EOTF) 1.0~2.7 sRGB EBU(2.35) L* PQ HLG Fixed	SelfCalibrationの調整目標となるガンマを設定します。 ガンマ値を設定するか、各規格で定義されているガンマカーブを選択します。 参考 ・ ColorNavigator 7で調整すると、「ガンマ (EOTF)」は「Fixed」になります。
	ガンマ調整方法	スタンダード グレイバランス重視 固定ガンマ	SelfCalibrationでのガンマの調整方法を選択します。 ・ 「スタンダード」 コントラストを維持しつつグレイバランスを調整します。 ・ 「グレイバランス重視」 中間階調の色度を白色点と同じになるように調整します。 ・ 「固定ガンマ」 特殊なガンマ設定を使用する場合に選択します。 注意点 ・ 「ガンマ (EOTF)」で「HLG」を指定している場合は「固定ガンマ」が選択され、設定できません。 ・ 「グレイバランス重視」では、グレイスケール上のすべての点を目標白色点に近づける調整をおこないます。中間階調における白の色味を重視して補正する場合に選択します。ただし、「グレイバランス重視」を選択した場合には、次の制約があります。 - コントラストが低下する場合があります。 - 「固定ガンマ」に比べて色域が狭くなる場合があります。
	PQ オプション	300 cd/m ² Clipping 500 cd/m ² Clipping 1000 cd/m ² Clipping 4000 cd/m ² Emulation 10000 cd/m ² Emulation	SelfCalibrationの調整目標となるPQオプションを設定します。 参考 ・ 「ガンマ (EOTF)」で「PQ」を指定している場合に設定できません。
	HLGシステムガンマ	1.0~1.5	SelfCalibrationの調整目標となるHLGシステムガンマを設定します。 参考 ・ 「ガンマ (EOTF)」で「HLG」を指定している場合に設定できません。
	色域	Native Adobe®RGB sRGB EBU BT.709 BT.2020 SMPTE-C DCI-P3 User	SelfCalibrationの調整目標となる色域を設定します。 「色域」では、各規格で定義されている色域を選択することができます。 各規格で定義されている色域以外に設定する場合は、赤、緑、青の色座標とモニター色域外の色の表示方法（「色域クリッピング」）を指定してください。 参考 ・ 「色域」で「Native」を選択すると、液晶パネル本来の色域で表示されます。 ・ 色域設定で色座標を指定すると、色域は「User」になります。
	Red(x) / Red(y) / Green(x) / Green(y) / Blue(x) / Blue(y)	0.0000 ~1.0000	
	色域クリッピング	オン オフ	

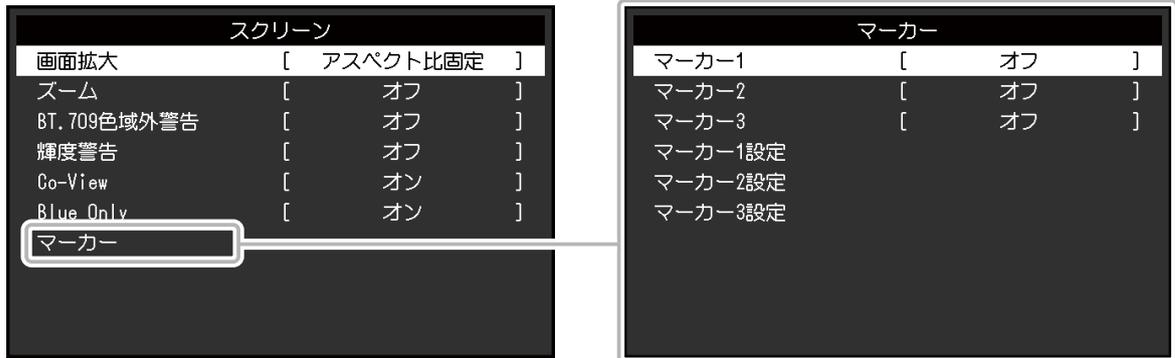
機能			設定値	説明
目標設定	詳細設定	リミテッド (109 % 白)	オン オフ	入力信号の輝度レンジを16~254 (10ビット: 64~1019) から0~255 (10ビット: 0~1023) に拡張して表示するかを設定します。 参考 ・「ガンマ (EOTF)」で「1.0~2.7」を指定している場合に設定できません。
リセット			—	現在選択しているカラーモードに設定されている調整目標を初期設定に戻します。

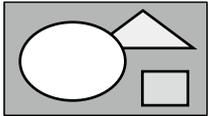
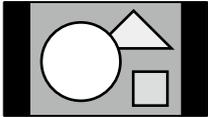
● SelfCalibration

「4-1. SelfCalibrationの各機能」 (P.37) を参照してください。

● スクリーン

画面の表示サイズやカラーフォーマットなど、入力信号の詳細を設定します。



機能	設定値	説明
画面拡大	自動 フルスクリーン アスペクト比固定 等倍	<p>モニター画面に表示するサイズを切り替えることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自動」 入力信号の解像度情報とアスペクト比情報に応じて、自動的に表示サイズを切り替えます（HDMI入力のみ有効）。 「フルスクリーン」 画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率は縦、横一定ではないため、表示画像に歪みが見られる場合があります。 「アスペクト比固定」 画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率を縦、横一定にするため、水平、垂直のどちらかの方向に画像が表示されない部分が残る場合があります。 「等倍」 設定した解像度のまま、または入力信号のままの大きさを画像が表示されます。 <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定例 <ul style="list-style-type: none"> - フルスクリーン  - アスペクト比固定  - 等倍（入力信号） 

機能	設定値	説明
ズーム	オフ 中央 左下 左上 右上 右下	<p>4K2K信号（解像度が4096×2160または3840×2160の信号）を画面に表示している場合、指定した領域を2倍に拡大表示することができます。映像の細部を確認するときなどに便利です。</p> <div data-bbox="794 376 1401 548" style="text-align: center;"> <p>例：「右上」を拡大</p> </div> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> • HDMIの4K 60Hz / 50Hz信号を入力している場合は使用できません。
BT.709色域外警告	オフ クリップ オン	<p>ITU-RのBT.2020規格に準拠した信号を入力している場合、BT.709規格の色域を超える色の表示方法を設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「オフ」 BT.2020の色域のまま表示します。 (モニターに表示される実際の色域は「色域クリッピング」(P.24)の設定によります。) <div data-bbox="837 963 1260 1131" style="text-align: center;"> <p>BT.2020規格で定義された色域 BT.709規格で定義された色域</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 「クリップ」 BT.709の色域外の色をBT.709の色域内で表現（クリップ）します。 <div data-bbox="837 1288 1260 1456" style="text-align: center;"> <p>BT.2020規格で定義された色域 BT.709規格で定義された色域</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 「オン」 BT.709の色域外の色をグレーで表示します。 <div data-bbox="837 1590 1260 1758" style="text-align: center;"> <p>BT.2020規格で定義された色域 BT.709規格で定義された色域</p> </div> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> • この機能は、「色域」(P.22)が「BT.2020」に設定されている場合のみ設定できます。 • この機能と「輝度警告」を同時に有効にすることはできません。この機能を「オン」または「クリップ」にすると、「輝度警告」機能が自動的に「オフ」になります。

機能	設定値	説明
輝度警告	オフ オン(Yellow) オン(Magenta)	<p>入力信号に対して、PQ オプション機能で設定した輝度よりも高い輝度をもつ領域（クリッピングされた領域）を確認することができます。</p> <p style="text-align: right;">例：オン(Magenta)を設定</p>  <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> この機能と「BT.709色域外警告」を同時に有効にすることはできません。この機能を「オン」に設定すると、「BT.709色域外警告」機能が自動的に「オフ」になります。
Co-View	オフ オン	<p>この機能を「オン」に設定すると、複数人でモニターを確認するなど、より広いアングルからモニターを確認する場合でも違和感のない表示にします。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 明るいはずの小さな点や細い線が少し暗く表示されるときは、この機能を「オフ」に設定すると改善される場合があります。ただし、この機能を「オフ」に設定すると、ハロー現象が発生する場合があります。
Blue Only	オフ オン	ノイズを確認するときに使用します。

機能	設定値	説明	
マーカー	マーカー1	オフ オン オン(3分割)	<p>この機能を「オン」に設定すると、マーカーが表示されます。「オン(3分割)」に設定すると、マーカー1とマーカー1を3等分した時の境界線を表示します。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 「オン(3分割)」に設定した場合、「マーカー2」と「マーカー3」は無効になります。
	マーカー2 マーカー3	オフ オン	この機能を「オン」に設定すると、マーカーが表示されません。
	マーカー1 設定 マーカー2 設定 マーカー3 設定	タイプ アスペクト	マーカーの位置とサイズを選択します。
		アスペクト	表示するマーカーのアスペクト比を設定します。
	アスペクト(ユーザー)	1.00:1 ~3.00:1	表示するマーカーのアスペクト比を自由に設定します。「アスペクト」で「User」を選択したときのみ設定できます。

機能		設定値		説明
マーカー	マーカー1 設定	エリアサイズ	50.0%~ 100.0% User	エリアのサイズを設定することができます。「タイプ」で「アスペクト」を選択したときのみ設定できます。
	マーカー2 設定	水平ポジション	※1	マーカーの水平位置を設定します。「タイプ」で「Dots (Free)」を選択したときのみ設定できます。
	マーカー3 設定	垂直ポジション	※1	マーカーの垂直位置を設定します。「タイプ」で「Dots (Free)」を選択したときのみ設定できます。
		幅	※1	マーカーの幅を設定します。「タイプ」で「Dots (Free)」または「Dots (Center)」を選択したとき、または「タイプ」で「アスペクト」を選択し、かつ、「エリアサイズ」で「User」を選択したときのみ設定できます。
		高さ	※1	マーカーの高さを設定します。「タイプ」で「Dots (Free)」または「Dots (Center)」を選択したとき、または「タイプ」で「アスペクト」を選択し、かつ、「エリアサイズ」で「User」を選択したときのみ設定できます。
		線の太さ	1 dot ~6 dots	マーカーの線の太さを設定します。
		カラー	White Red Green Blue Cyan Magenta Yellow Gray	マーカーの色を設定します。

※1 入力信号の解像度によって設定可能な値が異なります。

● 本体設定

使用環境やお好みに合わせて、モニター本体の設定をおこないます。

本体設定		
USB CHARGE ポート	[通常]
パワーセーブ	[オン]
オフタイマー	[15h]
ランプ輝度	[4]
入カスキップ		
モードスキップ		
カスタムキー		
オールリセット		

機能	設定値	説明
USB CHARGE ポート	通常 充電専用	<p>モニターのUSBダウンストリームポートの  ポートはUSB 3.1 Gen 1の急速充電に対応しています。この設定を「充電専用」に変更することで、 ポートに接続した機器を、「通常」設定時より早い時間で充電できます。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> この設定を切り替える前に、モニターに接続しているすべてのUSB機器とコンピュータとの通信を終了してください。設定を切り替えるときに、すべての通信が一時的に遮断されます。  ポートに接続した機器が、急速充電に対応している必要があります。 「充電専用」に設定すると、 ポートではコンピュータと接続機器間のデータ通信ができなくなり、接続機器は動作しません。 「充電専用」に設定すると、モニターとコンピュータをUSBケーブルで接続していない場合でも充電が可能です。
パワーセーブ	オン オフ	<p>外部機器の状態と連動して、モニターを省電力モードにすることができます。</p> <p>信号が入力されなくなったことを検出してから、約15秒後に省電力モードに移行します。省電力モードに移行すると、画面を非表示にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 省電力モードからの復帰方法 <ul style="list-style-type: none"> - モニターに信号が入力されると、自動的に復帰し画面が表示されます。 <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 省電力モードの移行の5秒前になると、移行をお知らせするメッセージが表示されます。 モニターを使用しない時は、主電源スイッチをオフにすることで電力が消費されなくなります。 省電力モードの場合も、USBダウンストリームポートに接続している機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、省電力モードであっても接続される機器によって変化します。

機能		設定値	説明
オフタイマー		オフ 6h 9h 12h 15h 18h	<p>モニターの電源を自動的に切るための時間を設定します。モニターの電源を入れてから、またはモニターがパワーセーブから復帰してから、ここで設定した時間が経過すると自動的に電源がオフになります。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> オフタイマーが作動する1分前になると、モニターの電源がオフになることをお知らせするメッセージが表示されます。 メッセージが表示されている間は、電源ボタン以外のボタンは操作できません。
ランプ輝度		オフ 1~7	画面表示時の電源ボタンおよび操作ボタンの明るさを設定することができます。(初期設定：4)
入力スキップ		スキップ -	<p>入力信号を切り替えるときに、使用しない入力信号をスキップすることができます。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての入力信号を「スキップ」にすることはできません。
モードスキップ		スキップ -	<p>モードを選択するときに、使用しないモードをスキップすることができます。表示するモードが限定されている場合や、表示状態をむやみに変更したくない場合にご利用ください。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのモードを「スキップ」にすることはできません。
カスタムキー	[F1]	S-GAMMA -Quick Check- オフ 入力レンジ ズーム BT.709色域外警告 輝度警告 カラーモードリターン インフォメーション タイムコード マーカー1 マーカー2 マーカー3 Blue Only Co-View Pixel Inspection	<p>[F1]キーに割り当てる機能を設定することができます。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期設定では、「S-GAMMA -Quick Check-」機能が設定されています。 カスタムキーについては、「第5章 カスタムキーの設定 (P.41)」を参照してください。
	[F2]	EOTF -Quick Check- オフ 入力レンジ ズーム BT.709色域外警告 輝度警告 カラーモードリターン インフォメーション タイムコード マーカー1 マーカー2 マーカー3 Blue Only Co-View Pixel Inspection	<p>[F2]キーに割り当てる機能を設定することができます。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期設定では、「EOTF -Quick Check-」機能が設定されています。 カスタムキーについては、「第5章 カスタムキーの設定 (P.41)」を参照してください。

機能		設定値	説明
カスタム キー	[F3]	BRIGHT -Quick Check- オフ 入力レンジ ズーム BT.709色域外警告 輝度警告 カラーモードリターン インフォメーション タイムコード マーカー1 マーカー2 マーカー3 Blue Only Co-View Pixel Inspection	[F3]キーに割り当てる機能を設定することができます。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 初期設定では、「BRIGHT -Quick Check-」機能が設定されています。 カスタムキーについては、「第5章 カスタムキーの設定 (P.41) を参照してください。
	[F4]	BLACK -Quick Check- オフ 入力レンジ ズーム BT.709色域外警告 輝度警告 カラーモードリターン インフォメーション タイムコード マーカー1 マーカー2 マーカー3 Blue Only Co-View Pixel Inspection	[F4]キーに割り当てる機能を設定することができます。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 初期設定では、「BLACK -Quick Check-」機能が設定されています。 カスタムキーについては、「第5章 カスタムキーの設定 (P.41) を参照してください。
オールリセット	—	—	「管理者設定」メニュー内の設定を除く、すべての設定内容を初期設定に戻します。

● 言語選択

メニューやメッセージの表示言語を選択することができます。

設定値

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、スウェーデン語、日本語、簡体中国語、繁体中国語



● インフォメーション

モニターの情報（製品名、製造番号(S/N)、ファームウェアバージョン、使用時間）と、入力信号の情報を確認することができます。

例：



第4章 SelfCalibration

この製品は、キャリブレーションセンサーを内蔵しています。事前に調整目標や調整の実行スケジュールを設定することで、キャリブレーションセンサーが自動的に作動し、定期的にモニターを調整します。この自動調整機能を「SelfCalibration」といいます。

SelfCalibrationは、実行するカラーモードによって調整内容が異なります。

- Standard Mode（「CAL1」、「CAL2」、「CAL3」を除くカラーモード）：
モニターの色再現域を更新し、各モードの表示を次のように調整します。
 - 色温度を規格値に近くなるように補正します。
 - 色域をそれぞれの規格値に近くなるように補正します。
 - 輝度の情報を更新します。
- Advanced Mode（カラーモード「CAL1」、「CAL2」、「CAL3」）：
 - モニター単体でSelfCalibrationを実行する場合は、設定した目標に合わせてモニターを調整します。
 - ColorNavigator 7を使用する場合は、ColorNavigator 7と測定器を使って調整した状態を維持します。

注意点

- SelfCalibrationを実行するモードに複数のカラーモードが設定されていると、ウォーミングアップが複数回実行され（※1）、すべてのカラーモードのSelfCalibrationが終了するまでに時間がかかる場合があります。
※1 SDRのカラーモード（BT.2020、BT.709、およびDCI-P3）のSelfCalibrationが実行された後に、HDRのカラーモード（PQ_BT.2100、PQ_DCI-P3、およびHLG_BT.2100）のSelfCalibrationが実行される場合など、輝度の差が大きいカラーモードを続けてSelfCalibrationする場合に都度ウォーミングアップが実行されます。

参考

- SelfCalibrationは、モニターの電源を入れてから30分以上経過すると実行可能になります。
- SelfCalibrationは外部機器の信号が入力されていない状態でも実行することができます。
- ColorNavigator 7で設定した調整内容を維持するために、SelfCalibrationを実行することをお勧めします。
- モニターは使用するに従って輝度や色度に変化するため、定期的にモニターを調整することをお勧めします。
- 基準としたい外付けの測定器の測定結果に、内蔵キャリブレーションセンサーの測定結果を合わせる（コレレーション）ができます。詳細は、ColorNavigator 7の取扱説明書を参照してください。

調整目標や実行スケジュールは、ColorNavigator 7およびモニターの設定メニューで設定できます。

ColorNavigator 7のソフトウェアおよび取扱説明書は当社のWebサイトからダウンロードできます。

www.eizo.co.jp

参考

- ソフトウェアを使用する場合は、モニターとコンピュータを付属のUSBケーブルで接続してください。
- USBケーブルの接続方法は、「[接続方法](#)」（P.69）を参照してください。
- ソフトウェア使用中は、モニター前面の電源ボタンや操作ボタンを操作しないでください。

4-1. SelfCalibrationの各機能

SelfCalibrationの詳細を設定します。



機能		設定値	説明	
実行		—	スケジュールに関係なく、手動でSelfCalibrationを実行することができます。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 「実行」を選択後、内蔵キャリブレーションセンサーが出る前にウォーミングアップ（モニターの電源を入れてからモニターの表示が安定するまでの一定時間、モニターを表示した状態にすること）が実行される場合があります。 	
設定	実行モード設定	Standard Mode	オン オフ	Standard ModeでのSelfCalibrationの有効、無効を切り替えます。
		Advanced Mode	CAL1 CAL2 CAL3	オン オフ
	スケジュール	開始タイミング	パワーセーブ 即時 アプリケーション制御 オフ	スケジュールで設定した時刻に到達したときに、SelfCalibrationを実行するタイミングを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 「パワーセーブ」 次のいずれかの場合に実行します。 <ul style="list-style-type: none"> - 設定時刻に到達したときにパワーセーブまたは電源オフになっている場合 - 設定時刻以降にパワーセーブまたは電源オフに移行する場合 「即時」 設定時刻に到達するとすぐにSelfCalibrationを実行します。 「アプリケーション制御」 ColorNavigator Networkで設定したタイミングでSelfCalibrationを実行します。ColorNavigator Networkの詳細は、当社のWebサイト (www.eizo.co.jp) を参照してください。 「オフ」 SelfCalibrationを実行しません。

機能		設定値	説明	
設定	スケジュール	実行サイクル	毎日 毎週 毎月 四半期 6か月 1年 使用時間	SelfCalibrationの実行サイクルを選択します。
		実行時期	1月/4月/7月/10月 2月/5月/8月/11月 3月/6月/9月/12月 1月/7月 2月/8月 3月/9月 4月/10月 5月/11月 6月/12月 1月～12月 50時間毎～500時間毎	実行サイクルが「四半期」「6か月」「1年」「使用時間」の場合に、SelfCalibrationを実行する時期を選択します。 実行サイクルの設定によって設定値が異なります。 <ul style="list-style-type: none"> 「四半期」の場合 1月/4月/7月/10月、2月/5月/8月/11月、3月/6月/9月/12月 「6か月」の場合 1月/7月、2月/8月、3月/9月、4月/10月、5月/11月、6月/12月 「1年」の場合 1月～12月 「使用時間」の場合 50時間毎～500時間毎
		週	第1週目～第5週目	実行サイクルが「毎月」「四半期」「6か月」「1年」の場合に、SelfCalibrationを実行する週を選択します。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 選択した週に、「曜日」で選択した曜日がない場合は、実行する週が以下となります。 <ul style="list-style-type: none"> - 選択した週が「第1週」の場合： 第2週目 - 選択した週が「第5週」の場合： 第4週目
		曜日	日曜日～土曜日	実行サイクルが「毎週」「毎月」「四半期」「6か月」「1年」の場合に、SelfCalibrationを実行する曜日を選択します。
		時間	0:00～23:55	実行サイクルが「毎日」「毎週」「毎月」「四半期」「6か月」「1年」の場合に、SelfCalibrationを実行する時間を選択します。
	時計合わせ	—	モニターの日時を設定します。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 時計が設定されていないと、スケジュールが適用されません。 長時間主電源を切ったままにしておくと、時計の再設定が必要になる場合があります。 ColorNavigator 7を起動すると、日時が自動的に設定されます。 	
結果	—	SelfCalibrationの実行結果が表示されます。		
次回スケジュール	—	次回のSelfCalibrationの実行予定時期が表示されます。		

4-2. 目標を設定する

Advanced Modeの調整目標を設定します。目標を設定するには、ColorNavigator 7で設定する方法と、モニター単体で設定する方法があります。

モニター単体で設定する場合は、「カラー調整」メニューで次の機能を設定します。

- 「カラーモード」
「CAL1」、「CAL2」、「CAL3」のいずれかを選択します。
- 「目標設定」
SelfCalibrationの調整目標を設定します。

4-3. 実行する

SelfCalibrationの実行方法には、スケジュールを設定して実行する方法とスケジュールに関係なく実行する方法があります。

スケジュールの設定方法には、ColorNavigator 7で設定する方法と、モニター単体で設定する方法があります。

モニター単体でスケジュールを設定してSelfCalibrationを実行する場合は、カラーモードのタイプ (Standard ModeまたはAdvanced Mode) によってSelfCalibrationを有効にする方法が異なります。

注意点

- SelfCalibration実行中に外部機器からの映像信号の状態が変化 (無信号になる、無信号から信号が入力される、など) すると、SelfCalibrationは自動的にキャンセルされます。

● スケジュールに関係なく実行する

手動でSelfCalibrationを実行します。

実行方法は次の2種類があります。

- 「SelfCalibration」メニューから実行する
「SelfCalibration」メニューで、「実行」を選択します。
「SelfCalibration」メニューの「設定」 - 「実行モード設定」で「オン」を選択したすべてのカラーモードに対してSelfCalibrationが実行されます。
- 「カラー調整」メニューから実行する
「カラー調整」メニューの「カラーモード」で「CAL1」、「CAL2」、「CAL3」のいずれかを選択し、「キャリブレーション実行」を選択します。
表示しているカラーモードに対してSelfCalibrationを実行します。

● スケジュールを設定して実行する

SelfCalibrationの実行スケジュールを設定します。

「SelfCalibration」メニューの「設定」で、SelfCalibrationの実行スケジュールとモニターの日時を設定します。

注意点

- スケジュールを設定して実行したSelfCalibrationが自動的にキャンセルされた場合、キャンセルされてから1時間以上経過した後にモニターが省電力モードに移行するか、で電源をオフにしたときに再実行されません。

● Standard ModeでSelfCalibrationを有効にする

Standard ModeでSelfCalibrationを実行します。

「SelfCalibration」メニューの「設定」で、次の機能を設定します。

- 「実行モード設定」
「Standard Mode」を「オン」に設定します。

● Advanced ModeでSelfCalibrationを有効にする

Advanced ModeでSelfCalibrationを実行します。

「SelfCalibration」メニューの「設定」で、次の機能を設定します。

- 「実行モード設定」
「Advanced Mode」を選択します。
- 「Advanced Mode」
「CAL1」、「CAL2」、「CAL3」のいずれかを選択し、「オン」を設定します。

4-4. 結果を確認する

SelfCalibrationの調整結果をモニターで確認します。

「カラー調整」メニューで次の機能を設定します。

- 「カラーモード」
「CAL1」、「CAL2」、「CAL3」のいずれかを選択します。
- 「結果」

SelfCalibrationの調整結果を確認します。

第5章 カスタムキーの設定

カスタムキーに機能を割り当てることで、特定の機能を簡単に起動することができます。
この章では、カスタムキーの操作方法とカスタムキーに機能を割り当てる方法を説明します。

5-1. カスタムキーの基本操作方法

1. 実行

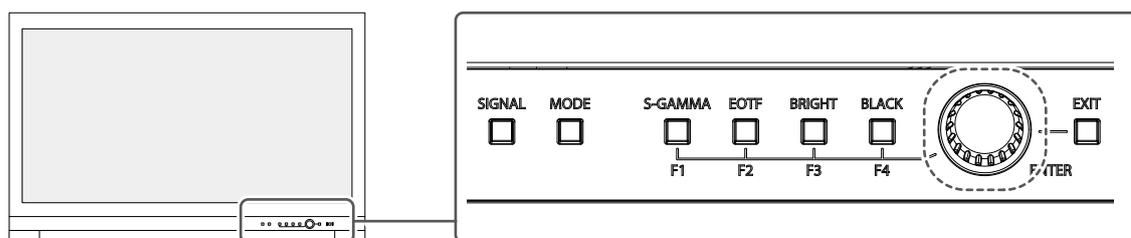
1. (F1) ボタン、 (F2) ボタン、 (F3) ボタン、または (F4) ボタンを押します。

(F1) ボタン、 (F2) ボタン、 (F3) ボタン、または (F4) ボタンに割り当てられた機能が実行されます。

5-2. カスタムキーの割り当て方法

1. メニューの表示

1. 調整ダイヤルを押します。



設定メニューが表示されます。



2. 調整ダイヤルを回して「本体設定」を選択し、調整ダイヤルを押します。
本体設定メニューが表示されます。

本体設定		
USB CHARGE ポート	[通常]
パワーセーブ	[オン]
オフタイマー	[15h]
ランプ輝度	[4]
入カスキップ		
モードスキップ		
カスタムキー		
オールリセット		

3. 調整ダイヤルを回して「カスタムキー」を選択し、調整ダイヤルを押します。
カスタムキーメニューが表示されます。

カスタムキー	
F1	[S-GAMMA -Quick Check-]
F2	[EOTF -Quick Check-]
F3	[BRIGHT -Quick Check-]
F4	[BLACK -Quick Check-]

4. 調整ダイヤルを回して機能を割り当てるカスタムキーを選択し、調整ダイヤルを押します。
割り当てる機能メニューが表示されます。

F1
S-GAMMA -Quick Check-
オフ
入カレンジ
ズーム
BT.709色域外警告
輝度警告
カラーモードリターン
インフォメーション
タイムコード
マーカー1
マーカー2
マーカー3
Blue Only
Co-View
Pixel Inspection

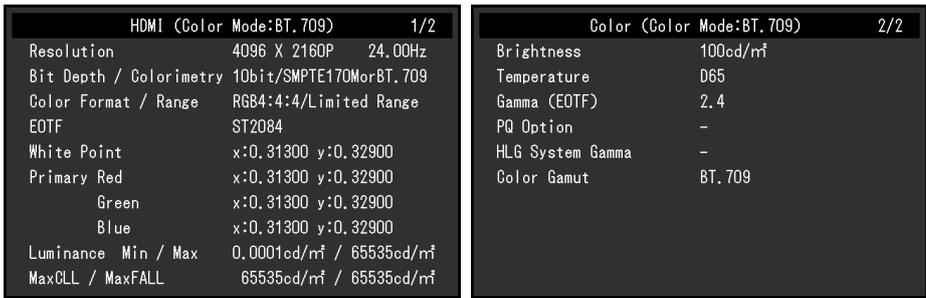
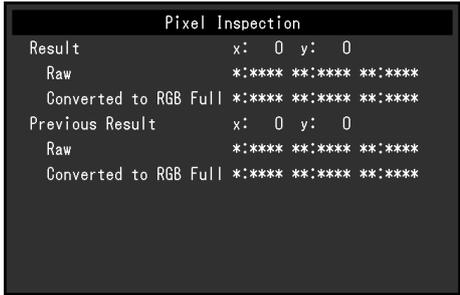
機能の詳細は、「カスタムキーに割り当てられる機能」(P.44)を参照してください。

- 調整ダイヤルを回して割り当てる機能を選択し、調整ダイヤルを押します。
カスタムキーに機能が割り当てられます。

2. 終了

-  (EXIT) ボタンを数回選択します。
設定メニューが終了します。

● カスタムキーに割り当てられる機能

機能	説明
S-GAMMA -Quick Check-	Quick Check機能のHLGシステムガンマを設定します。P.15を参照してください。
EOTF -Quick Check-	Quick Check機能のガンマ (EOTF)を設定します。P.15を参照してください。
BRIGHT -Quick Check-	Quick Check機能の輝度を設定します。P.15を参照してください。
BLACK -Quick Check-	Quick Check機能の黒レベルリフトを設定します。P.15を参照してください。
オフ	カスタムキーを押しても動作しないようにします。
入力レンジ	入力レンジ機能を設定します。P.19を参照してください。
ズーム	ズーム機能を設定します。P.29を参照してください。
BT.709色域外警告	BT.709色域外警告機能を設定します。P.29を参照してください。
輝度警告	輝度警告機能を設定します。P.30を参照してください。
カラーモードリターン	前回使用していたカラーモードに戻ることができます。2つのカラーモード間で、表示の違いを確認する場合に便利です。 注意点 ・ ColorNavigator 7を使用している場合は、ソフトウェア終了後にカラーモードを選択し直す必要があります。
インフォメーション	入力信号の情報、およびカラー情報を表示することができます。 例：  参考 ・ モニターの情報は、設定メニューの「インフォメーション」 (P.35) で確認することができます。
タイムコード	タイムコード機能を設定します。P.20を参照してください。
マーカー1	マーカー1機能を設定します。P.30を参照してください。
マーカー2	マーカー2機能を設定します。P.30を参照してください。
マーカー3	マーカー3機能を設定します。P.30を参照してください。
Blue Only	Blue Only機能を設定します。P.30を参照してください。
Co-View	Co-View機能を設定します。P.30を参照してください。
Pixel Inspection	Pixel Inspection機能を実行し、設定された座標のピクセル値を表示します。座標の指定は設定メニューの「Pixel Inspection」メニューでおこないます (「第6章 Pixel Inspection」 (P.45))。 

第6章 Pixel Inspection

指定した座標^{※1}のピクセルの色情報を取得します。「入力データのピクセルの色情報」と「モニター内部でRGBのフルレンジに変換した後のピクセルの色情報」を比較することで、適切な制作環境を構築できているかを確認できます。

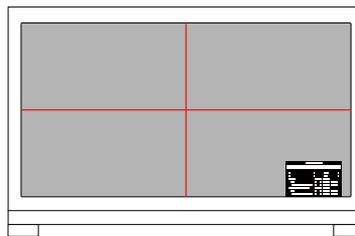
※1 入力信号に対して座標を指定するため、水平位置 / 垂直位置の設定可能範囲は入力信号に応じて変わります。

注意点

- この機能は、ファームウェアバージョンが「10006-xxxxx-xxxxx」以降の場合に使用できます。
- 次の場合、「Pixel Inspection」は無効になり、使用できません。
 - YCbCr 4:2:0の信号が入力されている
 - 「入力信号無し」または「信号エラー」のメッセージが表示されている
 - 液晶パネルの解像度を超える解像度の信号が入力されている
 - ズーム機能（「ズーム」 (P.29)）を使用している
- マーカー機能（「マーカー」 (P.30)）と同時に使用することはできません。

6-1. 座標を指定する

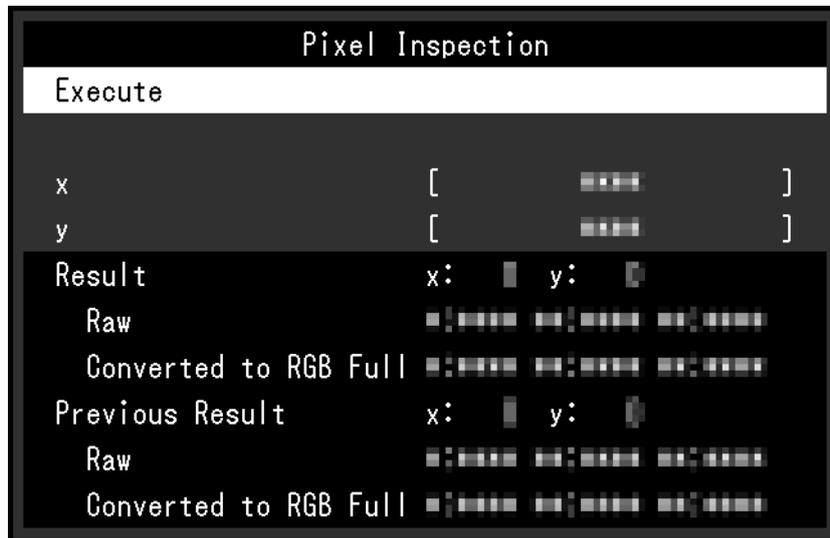
「Pixel Inspection」メニューを選択すると、座標を指定するための十字マーカーが画面上に表示されます。



1. 「Pixel Inspection」メニューの「x」（水平位置）または「y」（垂直位置）を選択し、を選択します。
調整メニューが表示されます。
2. で調整し、を選択します。
値を変更すると、十字マーカーも連動して移動します。

6-2. Pixel Inspectionを実行する

1. 「Pixel Inspection」メニューの「Execute」を選択し、を選択します。
指定した座標のピクセルの色情報が、実行結果として表示されます。
 - 「Raw」
入力データのピクセルの色情報
 - 「Converted to RGB Full」
モニター内部でRGBのフルレンジに変換した後のピクセルの色情報



注意点

- ピクセルの色情報は10ビット固定で表示されます。
- 「入力レンジ」の設定が「リミテッド (109% 白)」の場合、「Converted to RGB Full」の項目には、入力信号の0%～109%を0～1023で正規化した値が表示されます。
- タイムコード（「タイムコード」 (P.20)）が表示されているピクセルを指定した場合、入力データの色情報ではなく、表示されているタイムコードの色情報が取得されます。
- プログレッシブ以外の信号が入力された場合、入力データの色情報ではなく、モニター内部での画像処理を反映した色情報が取得されます（「Interlace/PsF」 (P.20) または「デインターレース」 (P.19) 参照）。

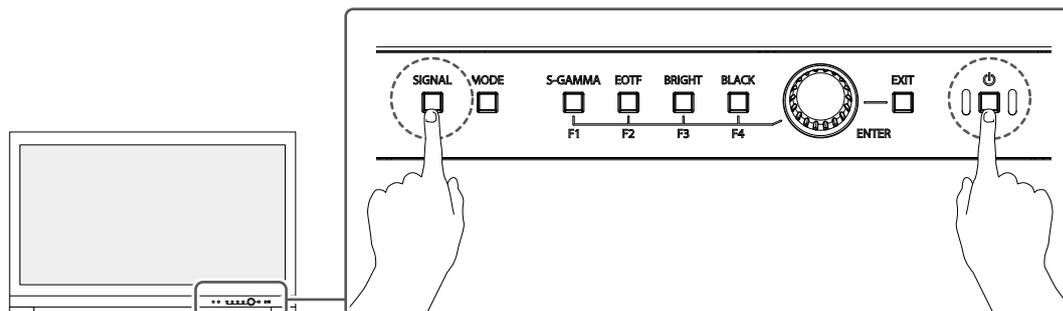
第7章 管理者向け設定

この章では、「管理者設定」メニューを使ってモニターの動作を設定する方法を説明します。

7-1. 「管理者設定」メニューの基本操作方法

1. メニューの表示

1. 電源ボタンを押して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のボタンを押しながら、電源ボタンを2秒以上押してモニターの電源を入れます。

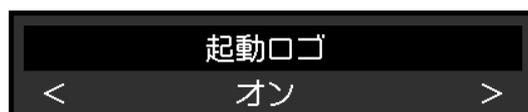


「管理者設定」メニューが表示されます。

管理者設定	
起動ロゴ	[オン]
インフォメーション表示	[オン]
操作ロック	[オフ]
互換モード	[オフ]
信号フォーマット	
完了	

2. 設定

1. 調整ダイヤルを回して設定したい項目を選択し、調整ダイヤルを押します。
調整 / 設定メニューが表示されます。

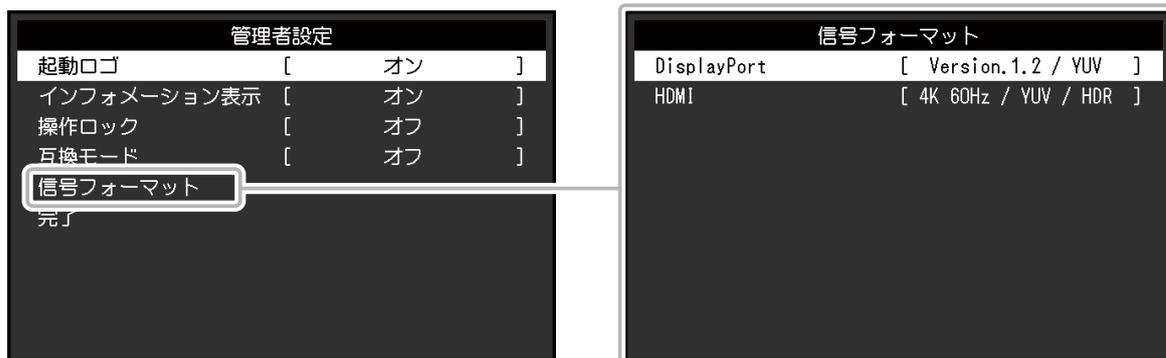


2. 調整ダイヤルを回して設定し、調整ダイヤルを押します。
「管理者設定」メニューが表示されます。

3. 確定と終了

1. 「完了」を選択し、調整ダイヤルを押します。
設定が確定し、「管理者設定」メニューが終了します。

7-2. 「管理者設定」メニューの各機能



機能		設定値	説明
起動ロゴ		オフ オン	この機能を「オフ」に設定すると、製品の電源を入れた際に表示されるEIZOロゴを非表示にすることができます。
インフォメーション表示		オフ オン	この機能を「オン」に設定すると、信号またはカラーモードを切り替えたときに「入力信号情報」(P.18)が表示されます。 「オフ」に設定すると、信号またはカラーモードを切り替えたときに「入力信号情報」(P.18)を表示しません。
操作ロック		オフ メニュー オール	設定した状態を変更できないように、モニター前面の操作ボタンをロックすることができます。 <ul style="list-style-type: none"> 「オフ」(初期設定) すべてのボタンが有効です。 「メニュー」 調整ダイヤルをロックします。Quick Check機能の設定値は変更できません。 「オール」 電源ボタンを除くすべてのボタンをロックします。
互換モード		オフ オン	次の現象を回避したい場合は、この機能を「オン」に設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> モニターの電源をオフ/オンした場合や省電力モードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれる。 コンピュータのパワーセーブ機能が正常に動作しない。
信号フォーマット	DisplayPort	Version 1.2 Version 1.2 / YUV	モニターが表示できる信号の種類を切り替えることができます。入力信号が表示されない場合や意図した表示ができない場合に設定を変更してください。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 「4K 30Hz」と「4K 60Hz / YUV / HDR」の解像度の初期値は、1920×1080です。
	HDMI	4K 30Hz 4K 60Hz / YUV / HDR 4K 60Hz	

第 8 章 SDR / HDR設定

この章では、このモニターを映像制作用途で使用する場合の設定方法を示します。

「8-1. 各カラーモードについて」 (P.49) では、各カラーモードの用途や設定内容について示します。

「8-2. 設定手順」 (P.56) では、各カラーモードを用途に応じた表示に適した設定にするための手順を示します。

「8-3. ColorNavigator 7を使用した設定方法」 (P.60) では、ソフトウェアを使用した設定手順の概要を示します。

注意点

- 設定の前に、「インフォメーション」 (P.35) を参照してモニターのファームウェアバージョンを確認してください。当社Webサイト (www.eizo.co.jp) の「サポート」から「ソフトウェア&ドライバ」を選択し、製品名を入力して検索します。最新バージョンと異なる場合、プログラムをダウンロードしてファームウェアを更新してください。

参考

- モニターの表示が安定するまでに、約3分 (当社測定条件による) かかります。高精度の調整をおこないたい場合は、電源を入れて20分以上経過するまでお待ちください。
- SDRのカラーモード (BT.2020、BT.709、およびDCI-P3) とHDRのカラーモード (PQ_BT.2100、PQ_DCI-P3、およびHLG_BT.2100) を切り替える場合、モニターの調整はカラーモードを切り替えてから30分以上経過するまでお待ちください。

8-1. 各カラーモードについて

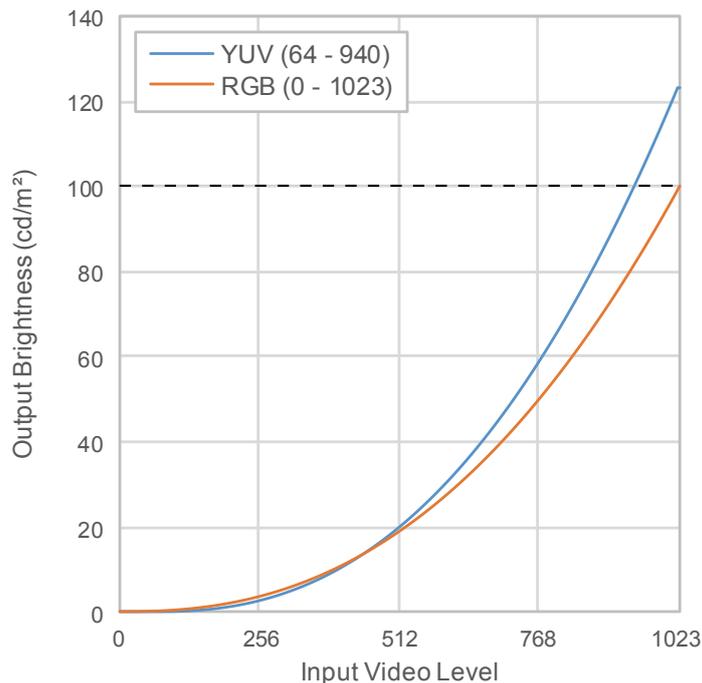
● 映像制作用途で使用するカラーモードの種類と用途

カラーモード	用途
BT.2020	(SDR) ITU-R のBT.2020 規格で定められた色域、ガンマを再現するのに適しています。
BT.709	(SDR) ITU-R のBT.709 規格で定められた色域、ガンマを再現するのに適しています。
DCI-P3	(SDR) DCI 規格で定められた色域、ガンマを再現するのに適しています。
PQ_BT.2100	(HDR) ITU-R のBT.2100 規格で定められた色域を、PQ方式のガンマ (EOTF) で再現するのに適しています。
PQ_DCI-P3	(HDR) DCI 規格で定められた色域を、PQ方式のガンマ (EOTF) で再現するのに適しています。
HLG_BT.2100	(HDR) ITU-R のBT.2100 規格で定められた色域を、HLG方式のガンマ (EOTF) で再現するのに適しています。

各カラーモードを正しく設定した場合の入力信号 (10ビット：0~1023) とモニターに表示される輝度の関係を以降で示します。設定方法の詳細は、「8-2. 設定手順」 (P.56) を参照してください。

● BT.2020

入力信号（0～1023）とモニターに表示される輝度（cd/m²）の関係を示します。



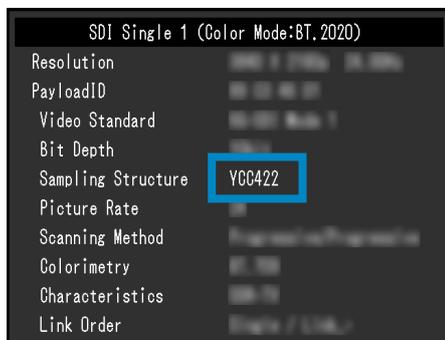
設定メニューの主な設定項目

設定手順の詳細は、「8-2. 設定手順」(P.56)を参照してください。

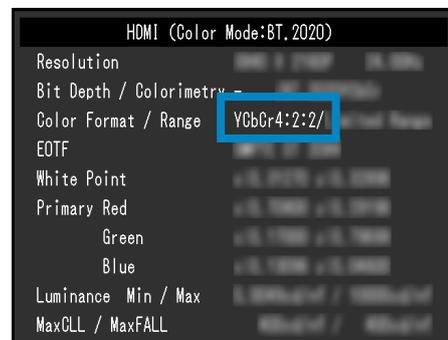
項目		カラーフォーマット※1	
		RGB	YUV
信号設定	YUVカラーマトリクス	自動	BT.2020※2
	入力レンジ	フル	リミテッド (109%白)
カラー調整	輝度 (cd/m ²)	100	123
	色温度	D65	D65
	ガンマ (EOTF)	2.4	2.4
	色域	BT.2020	BT.2020

※1 映像が正しく表示されている場合は、設定メニューの「信号設定」－「入力信号情報」で確認できます。
 下図の青枠内に「YCbCr」または「YCC」を含む文字列が表示されている場合はYUV信号になります。
 「RGB」を含む文字列が表示されている場合はRGB信号になります。

・ SDIの場合



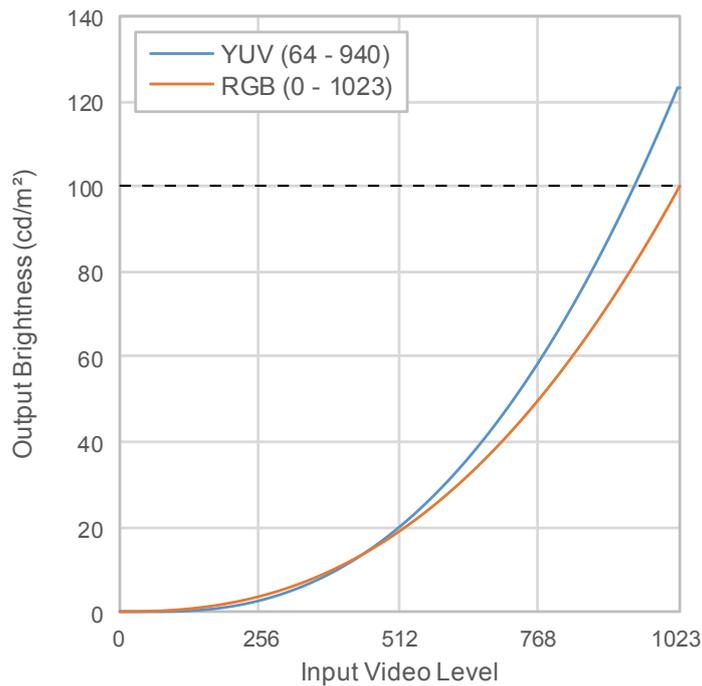
・ HDMIの場合



※2 お使いの機材やツールの制約または設定によってBT.2020以外の変換係数が適用される場合があります。

● BT.709

入力信号（0～1023）とモニターに表示される輝度の関係を示します。



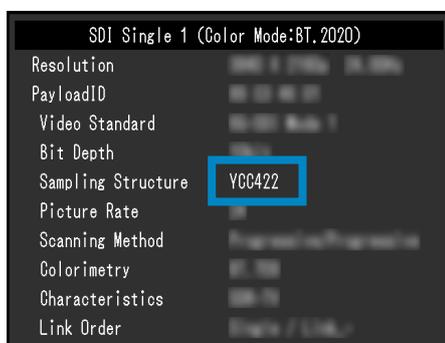
設定メニューの主な設定項目

設定手順の詳細は、「8-2. 設定手順」(P.56)を参照してください。

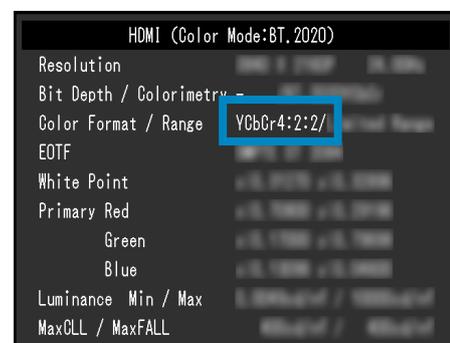
項目		カラーフォーマット※1	
		RGB	YUV
信号設定	YUVカラーマトリクス	自動	BT.709
	入力レンジ	フル	リミテッド (109%白)
カラー調整	輝度 (cd/m ²)	100	123
	色温度	D65	D65
	ガンマ (EOTF)	2.4	2.4
	色域	BT.709	BT.709

※1 映像が正しく表示されている場合は、設定メニューの「信号設定」－「入力信号情報」で確認できます。
 下図の青枠内に「YCbCr」または「YCC」を含む文字列が表示されている場合はYUV信号になります。
 「RGB」を含む文字列が表示されている場合はRGB信号になります。

・ SDIの場合

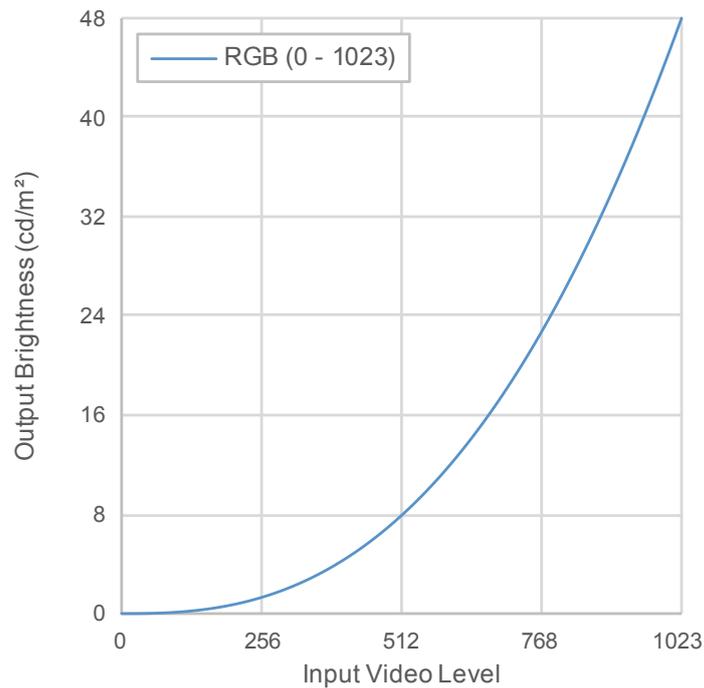


・ HDMIの場合



● DCI-P3

入力信号（0～1023）とモニターに表示される輝度（cd/m²）の関係を示します。



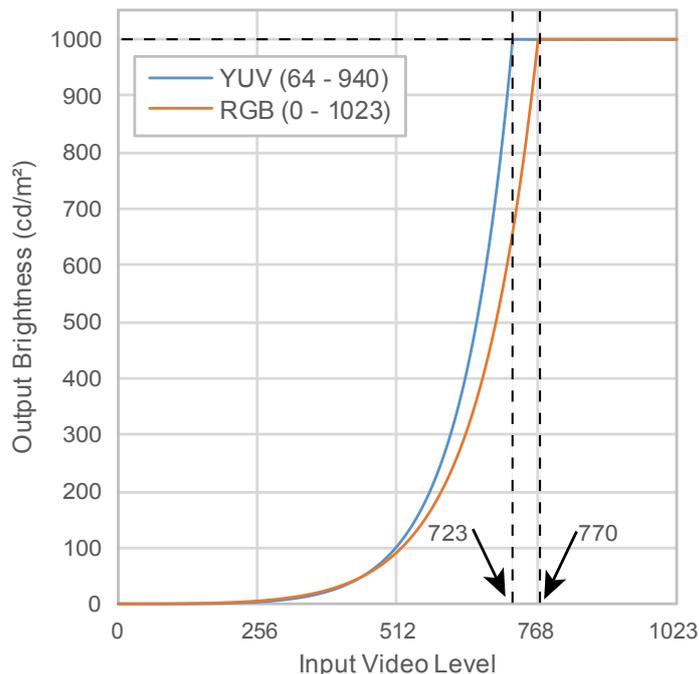
設定メニューの主な設定項目

設定手順の詳細は、「8-2. 設定手順」(P.56)を参照してください。

項目		カラーフォーマット
		RGB
信号設定	YUVカラーマトリクス	自動
	入力レンジ	フル
カラー調整	輝度 (cd/m ²)	48
	色温度	D65
	ガンマ (EOTF)	2.6
	色域	DCI-P3

● PQ_BT.2100

入力信号（0～1023）とモニターに表示される輝度（cd/m²）の関係を示します。



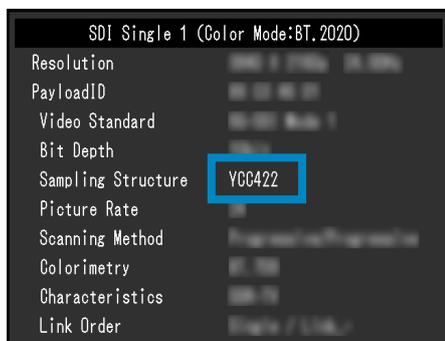
設定メニューの主な設定項目

設定手順の詳細は、「8-2. 設定手順」（P.56）を参照してください。

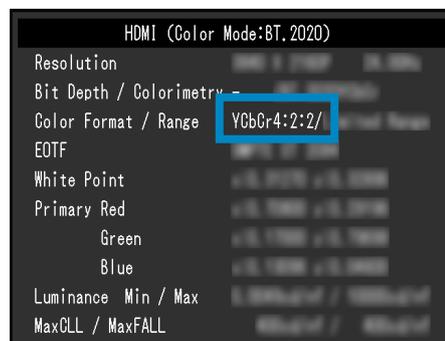
項目		カラーフォーマット※1	
		RGB	YUV
信号設定	YUVカラーマトリクス	自動	BT.2020※2
	入力レンジ	フル	リミテッド
カラー調整	輝度 (cd/m ²)	1000	1000
	色温度	D65	D65
	ガンマ (EOTF)	PQ	PQ
	PQ オプション※3	1000 cd/m ² Clipping	1000 cd/m ² Clipping
	色域	BT.2020	BT.2020

※1 映像が正しく表示されている場合は、設定メニューの「信号設定」－「入力信号情報」で確認できます。
 下図の青枠内に「YCbCr」または「YCC」を含む文字列が表示されている場合はYUV信号になります。
 「RGB」を含む文字列が表示されている場合はRGB信号になります。

・ SDIの場合



・ HDMIの場合

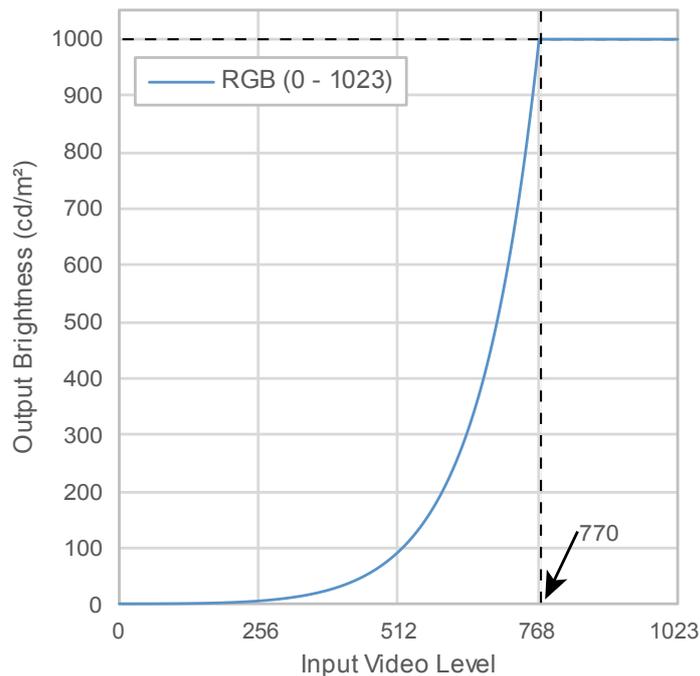


※2 お使いの機材やツールの制約または設定によってBT.2020以外の変換係数が適用される場合があります。

※3 詳細は「PQ オプション」（P.22）および「PQ オプションの設定と表示」（P.23）を参照してください。

● PQ_DCI-P3

入力信号（0～1023）とモニターに表示される輝度の関係を示します。



設定メニューの主な設定項目

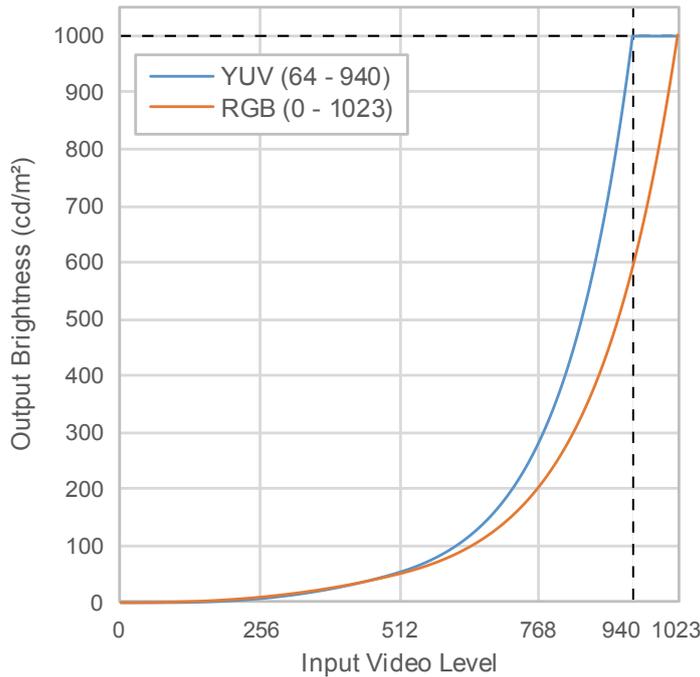
設定手順の詳細は、「8-2. 設定手順」(P.56)を参照してください。

項目		カラーフォーマット
		RGB
信号設定	YUVカラーマトリクス	自動
	入力レンジ	フル
カラー調整	輝度 (cd/m ²)	1000
	色温度	D65
	ガンマ (EOTF)	PQ
	PQ オプション ^{※1}	1000 cd/m ² Clipping
	色域	DCI-P3

※1 詳細は「PQ オプション」(P.22) および「PQ オプションの設定と表示」(P.23)を参照してください。

● HLG_BT.2100

入力信号（0～1023）とモニターに表示される輝度（cd/m²）の関係を示します。



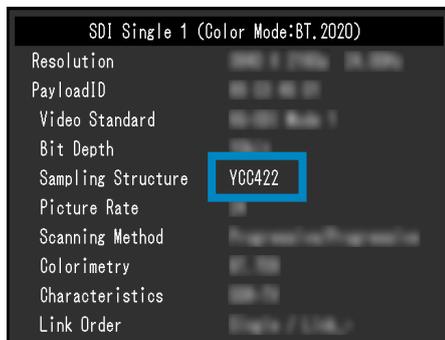
設定メニューの主な設定項目

設定手順の詳細は、「8-2. 設定手順」(P.56)を参照してください。

項目		カラーフォーマット※1	
		RGB	YUV
信号設定	YUVカラーマトリクス	自動	BT.2020※2
	入力レンジ	フル	リミテッド
カラー調整	輝度 (cd/m ²)	1000	1000
	色温度	D65	D65
	ガンマ (EOTF)	HLG	HLG
	HLGシステムガンマ	1.2	1.2
	色域	BT.2020	BT.2020

※1 映像が正しく表示されている場合は、設定メニューの「信号設定」－「入力信号情報」で確認できます。
 下図の青枠内に「YCbCr」または「YCC」を含む文字列が表示されている場合はYUV信号になります。
 「RGB」を含む文字列が表示されている場合はRGB信号になります。

・ SDIの場合



・ HDMIの場合



※2 お使いの機材やツールの制約または設定によってBT.2020以外の変換係数が適用される場合があります。

8-2. 設定手順

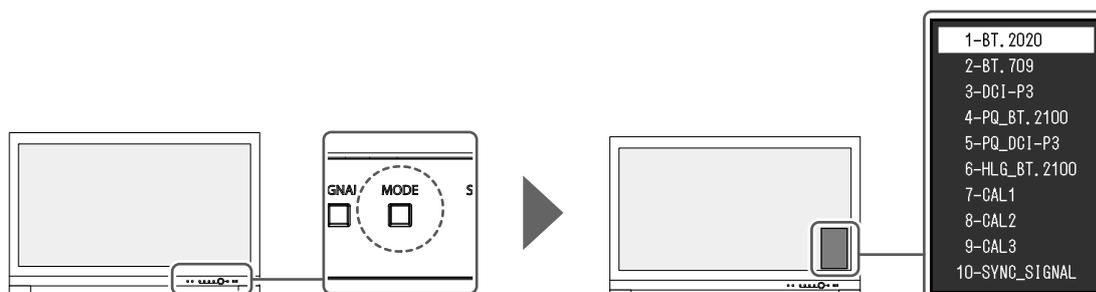
このモニターをSDRまたはHDR映像の表示に適した設定で使用するための手順を示します。

参考

- ColorNavigator 7を使用したSDR / HDR設定手順については「[8-3. ColorNavigator 7を使用した設定方法](#)」(P.60)を参照してください。

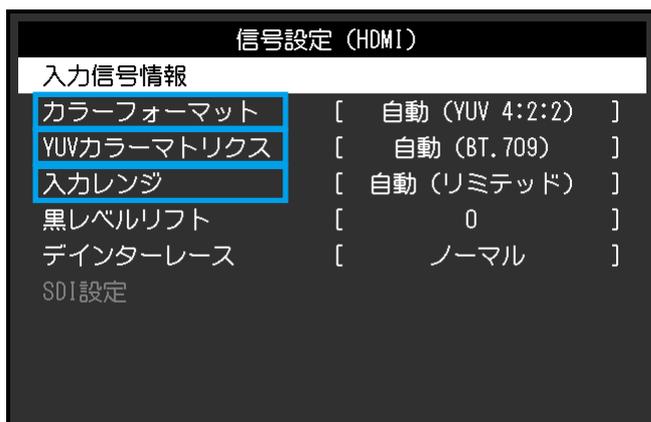
1. カラーモードを選択します

用途に応じたカラーモードを選択します。



カラーモード	用途
BT.2020	(SDR) ITU-RのBT.2020規格で定められた色域、ガンマを再現するのに適しています。
BT.709	(SDR) ITU-RのBT.709規格で定められた色域、ガンマを再現するのに適しています。
DCI-P3	(SDR) DCI規格で定められた色域、ガンマを再現するのに適しています。
PQ_BT.2100	(HDR) ITU-RのBT.2100規格で定められた色域を、PQ方式のガンマ(EOTF)で再現するのに適しています。
PQ_DCI-P3	(HDR) DCI規格で定められた色域を、PQ方式のガンマ(EOTF)で再現するのに適しています。
HLG_BT.2100	(HDR) ITU-RのBT.2100規格で定められた色域を、HLG方式のガンマ(EOTF)で再現するのに適しています。

2. 設定メニューの「信号設定」を表示し、必要な項目の設定をします



参考

- 設定メニューの基本操作方法の詳細は、「3-1. 設定メニューの基本操作方法」(P.16)を参照してください。

1. 映像が正しく表示されていない場合は「信号設定」メニューの「カラーフォーマット」を設定します。

「信号設定」メニューの「入力信号情報」で「YCbCr」または「YCC」を含む文字列が表示されている場合はYUV信号になります。「RGB」を含む文字列が表示されている場合はRGB信号になります。

2. YUV信号を表示している場合、「YUVカラーマトリクス」を設定します。

選択したカラーモードごとの設定は次の通りです。

カラーモード	YUVカラーマトリクス
BT.2020	BT.2020
BT.709	BT.709
PQ_BT.2100	BT.2020
HLG_BT.2100	BT.2020

参考

- RGB信号の場合、初期設定のままにします。
- お使いの機材やツールの制約または設定によってBT.2020以外の変換係数が適用される場合があります。その場合は機材やツールの設定に合わせて適切に設定してください。

3. 「入力レンジ」を設定します。

選択したカラーモードおよびカラーフォーマットごとの設定は次の通りです。

カラーモード	カラーフォーマット	入力レンジ
BT.2020	RGB	フル
	YUV	リミテッド (109%白)
BT.709	RGB	フル
	YUV	リミテッド (109%白)
DCI-P3	RGB	フル
PQ_BT.2100	RGB	フル
	YUV	リミテッド
PQ_DCI-P3	RGB	フル
HLG_BT.2100	RGB	フル
	YUV	リミテッド

3. 設定メニューの「カラー調整」を表示し、必要な項目の設定をします

カラー調整 (BT. 2020)		
カラーモード	[BT. 2020]
輝度	[100cd/m2]
色温度	[6500K]
ガンマ (EOTF)	[2.2]
PQ オプション	[-]
HLGシステムガンマ	[-]
色域	[BT. 2020]
詳細設定		
リセット		

参考

- 設定の前に「カラー調整」の「リセット」を実行することをおすすめします。「リセット」を実行すると、SDR映像かつYUV信号の場合を除いて設定は必要ありません。

選択したカラーモードおよびカラーフォーマットごとの設定は次の通りです。

カラーモード	カラーフォーマット	輝度 (cd/m ²)	ガンマ (EOTF)
BT.2020	RGB	100	2.4
	YUV	100	2.4
BT.709	RGB	100	2.4
	YUV	100	2.4
DCI-P3	RGB	48	2.6
PQ_BT.2100	RGB	1000	PQ
	YUV	1000	PQ
PQ_DCI-P3	RGB	1000	PQ
HLG_BT.2100	RGB	1000	HLG
	YUV	1000	HLG

詳細設定の設定内容は初期設定の通りです。詳細は「カラーモードの設定値」(P.14)を参照してください。

4. 設定メニューを閉じて設定を完了します

- (EXIT) ボタンを押して、「カラー調整」を終了し、設定メニューを表示します。もう一度 (EXIT) ボタンを押すと設定メニューが閉じます。

● 設定項目一覧

信号設定

カラーモード	カラーフォーマット	YUVカラーマトリクス	入力レンジ※1
BT.2020	RGB	自動	フル
	YUV	BT.2020※1	リミテッド (109%白)
BT.709	RGB	自動	フル
	YUV	BT.709※1	リミテッド (109%白)
DCI-P3	RGB	自動	フル
PQ_BT.2100	RGB	自動	フル
	YUV	BT.2020※1	リミテッド
PQ_DCI-P3	RGB	自動	フル
HLG_BT.2100	RGB	自動	フル
	YUV	BT.2020※1	リミテッド

※1 初期設定から変更する項目です。

カラー調整

—：変更不可

カラーモード	カラーフォーマット	輝度 (cd/m ²)	色温度	ガンマ (EOTF)	PQ オプション	HLG システムガンマ	色域
BT.2020	RGB	100	D65	2.4	—	—	BT.2020
	YUV	100					
BT.709	RGB	100	D65	2.4	—	—	BT.709
	YUV	100					
DCI-P3	RGB	48	D65	2.6	—	—	DCI
PQ_BT.2100	RGB	1000	D65	PQ	1000 cd/m ² Clipping	—	BT.2020
	YUV						
PQ_DCI-P3	RGB	1000	D65	PQ	1000 cd/m ² Clipping	—	DCI
HLG_BT.2100	RGB	1000	D65	HLG	—	1.2	BT.2020
	YUV						

8-3. ColorNavigator 7を使用した設定方法

ColorNavigator 7を使用してモニターをSDRまたはHDR表示に適した設定にすることができます。次のような場合はColorNavigator 7を使用してキャリブレーションすることをおすすめします。

- ・定期的にキャリブレーションしたい場合
キャリブレーション時期を伝える通知機能があります。
- ・適切にキャリブレーションされているか検証したい場合
キャリブレーション状態を検証する機能があります。

参考

- ・モニターの設定メニューのみを操作する調整方法については「[8-2. 設定手順](#)」(P.56)を参照してください。
- ・ColorNavigator 7についての詳細は当社のWebサイトを参照してください
(www.eizo.co.jp/products/ce/cn7)

● 設定手順

1. モニターの設定メニューでカラーモードを選択します

「[8-2. 設定手順](#)」(P.56)の手順1を参照して設定します。

2. モニターの設定メニューで「信号設定」を表示し、必要な項目の設定をします

「[8-2. 設定手順](#)」(P.56)の手順2を参照して設定します。

参考

- ・設定項目の一覧は「[設定項目一覧](#)」(P.59)を参照してください。

3. ColorNavigator 7を起動します

4. カラーモードリストで選択されているカラーモード上でマウスを右クリックし、カラーモードタイプを「Advanced」に設定します

5. 調整目標を用途に合わせて設定します

詳細は「[ColorNavigator 7の目標設定](#)」(P.60)を参照してください。

● ColorNavigator 7の目標設定

カラーモードタイプ、輝度、黒レベル、色温度

カラーモード	カラーフォーマット	カラーモードタイプ	輝度 (cd/m ²)	黒レベル	色温度
BT.2020	RGB	Advanced ^{*1}	100	最小値	D65
	YUV		100		
BT.709	RGB	Advanced ^{*1}	100	最小値	D65
	YUV		100		
DCI-P3	RGB	Advanced ^{*1}	48	最小値	D65
PQ_BT.2100	RGB	Advanced ^{*1}	1000	最小値	D65
	YUV				
PQ_DCI-P3	RGB	Advanced ^{*1}	1000	最小値	D65
HLG_BT.2100	RGB	Advanced ^{*1}	1000	最小値	D65
	YUV				

※1 初期設定から変更する項目です。

ガンマ (EOTF) 、PQ オプション、HLGシステムガンマ、調整方法

—：変更不可

カラーモード	カラーフォーマット	ガンマ (EOTF)	PQ オプション	HLGシステムガンマ	調整方法
BT.2020	RGB	2.4	—	—	標準
	YUV				
BT.709	RGB	2.4	—	—	標準
	YUV				
DCI-P3	RGB	2.6	—	—	標準
PQ_BT.2100	RGB	PQ	1000 cd/m ² Clipping	—	標準
	YUV				
PQ_DCI-P3	RGB	PQ	1000 cd/m ² Clipping	—	標準
HLG_ BT.2100	RGB	HLG	—	1.2	標準
	YUV				

色域、色域クリッピング、オプション

カラーモード	カラーフォーマット	色域 (規格値)	色域クリッピング	オプション ^{※1}
BT.2020	RGB	BT.2020	オン	—
	YUV			オン
BT.709	RGB	BT.709	オン	—
	YUV			オン
DCI-P3	RGB	DCI-P3	オン	—
PQ_BT.2100	RGB	BT.2020	オン	—
	YUV			
PQ_DCI-P3	RGB	DCI-P3	オン	—
HLG_ BT.2100	RGB	BT.2020	オン	—
	YUV			

※1 「リミテッド (109% 白) に最適化」 の設定

第9章 トラブルシューティング

9-1. 画面が表示されない場合

症状	原因と対処方法
1. 画面が表示されない <ul style="list-style-type: none"> 電源ランプが点灯しない 	<ul style="list-style-type: none"> 電源コードは正しく接続されていますか。 背面の主電源スイッチを入れてください。 ⏻を押してください。 背面の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度スイッチを入れてみてください。
<ul style="list-style-type: none"> 電源ランプが点灯：白色 	<ul style="list-style-type: none"> 設定メニューの「輝度」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（「カラー調整」(P.20) 参照）。
<ul style="list-style-type: none"> 電源ランプが点灯：橙色 	<ul style="list-style-type: none"> 入力信号を切り替えてみてください。 マウス、キーボードを操作してみてください。 外部機器の電源は入っていますか。 背面の主電源スイッチを切り、もう一度スイッチを入れてみてください。
<ul style="list-style-type: none"> 電源ランプが点滅：橙色、白色 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機器をDisplayPortコネクタに接続している場合に、この症状が発生することがあります。当社指定の信号ケーブルで接続し、モニターの電源を入れ直してみてください。
2. 次のようなメッセージが表示される	<p>この表示はモニターが正常に機能しているにもかかわらず、信号が正しく入力されていないときに表示されます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 信号が入力されていない場合の表示です。 <p>例：</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機器によっては電源を入れても信号がすぐに出力されないため、左のような画面が表示されることがあります。 外部機器の電源は入っていますか。 信号ケーブルは正しく接続されていますか。 入力信号を切り替えてみてください。 背面の主電源スイッチを切り、もう一度スイッチを入れてみてください。 管理者設定メニューの「信号フォーマット」を変更してみてください（「信号フォーマット」(P.48) 参照）。
<ul style="list-style-type: none"> 入力されている信号が周波数仕様範囲外であることを示す表示です。 <p>例：</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機器の設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていませんか（『対応解像度』参照）。 外部機器を再起動してみてください。 グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細は、グラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。 SDI信号を入力している場合は、「カラーフォーマット」を変更してみてください（「カラーフォーマット」(P.19) 参照）。

9-2. 画面に関する症状

症状	原因と対処方法
1. 画面が明るすぎる / 暗すぎる	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「輝度」を調整してください（「カラー調整」(P.20) 参照）。液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。
2. 残像が現れる	<ul style="list-style-type: none">この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをおすすめします。長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。
3. 画面に緑、赤、青、白のドットが残る / 点灯しないドットが残る	<ul style="list-style-type: none">これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。
4. 画面上に干渉縞が見られる / 液晶パネルを押した跡が消えない	<ul style="list-style-type: none">画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。
5. 画面にノイズが現れる	<ul style="list-style-type: none">HDCP方式の信号を入力した場合、正常な画面がすぐに表示されないことがあります。
6. 電源のオフ / オン時や省電力モードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれる	<ul style="list-style-type: none">「管理者設定」メニューの「互換モード」で、設定を「オン」にしてください（「互換モード」(P.48) 参照）。
7. 画面の色がおかしい	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「カラーフォーマット」を変更してみてください（「カラーフォーマット」(P.19) 参照）。HDMI信号入力の場合、「管理者設定」メニューの「信号フォーマット」を変更してみてください（「信号フォーマット」(P.48) 参照）。
8. 画面全体に画像が表示されない	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「画面拡大」を変更してみてください（「画面拡大」(P.28) 参照）。

9-3. SelfCalibrationに関する症状

症状	原因と対処方法
1. 内蔵キャリブレーションセンサーが出てこない/出たままになる	<ul style="list-style-type: none"> 主電源を切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。
2. SelfCalibrationが実行できない	<ul style="list-style-type: none"> SelfCalibrationを実行するカラーモードは設定されていますか（「実行モード設定」(P.37) 参照） モニターの日時が正しく設定されていますか（「時計合わせ」(P.38) 参照）。 実行スケジュールが設定されていますか（「スケジュール」(P.37) 参照）。 調整目標が正しく設定されていますか（「目標設定」(P.25) 参照）。 ColorNavigator 7を使用してモニターを調整してみてください。
3. SelfCalibrationに失敗する	<ul style="list-style-type: none"> エラーコード表を参照してください。エラーコード表にないコードが表示された場合は、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。
4. SelfCalibrationが途中でキャンセルされる	<ul style="list-style-type: none"> SelfCalibration実行中に外部機器からの映像信号の状態が変化（無信号になる、無信号から信号が入力される、など）すると、SelfCalibrationはキャンセルされます。 映像信号の状態が変わらないようにしてSelfCalibrationを実行してください。 スケジュールを設定して実行したSelfCalibrationがキャンセルされた場合、1時間以上経過した後にモニターが省電力モードに移行するか、で電源をオフにしたときに再実行されます。スケジュールに関係なく実行することもできます（「4-3. 実行する」(P.39) 参照）。

エラーコード表

次のエラーが発生した場合、カラー調整メニューにエラーコードとエラーメッセージが表示されます。

- 調整目標値
- 輝度の設定値
- 黒レベルの設定値

エラーコード	エラーメッセージ
000020	センサーの開閉に失敗しました。 センサー周辺に異物がないか確認してください。
000021	
010141	目標値の設定が間違っています。 設定を見直してください。
****52	目標黒レベルに調整できません。 目標黒レベルを上げるか、“Min”に設定してください。

9-4. その他の症状

症状	原因と対処方法
1. 設定メニュー/モードメニューが表示できない	<ul style="list-style-type: none"> • 操作ボタンのロックが機能していないか確認してみてください（「操作ロック」(P.48) 参照）。 • ColorNavigator 7のメインウィンドウを表示している場合は操作ボタンがロックされています。ソフトウェアを終了してください。
2. USBケーブルで接続したモニターが認識されない/モニターに接続しているUSB周辺機器が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> • USBケーブルは正しく接続されていますか（「10-3. USBハブ機能の使用方法」(P.69) 参照）。 • 周辺機器を  ポートに接続している場合は、「USB CHARGE ポート」の設定を確認してみてください（「USB CHARGE ポート」(P.32) 参照）。「充電専用」に設定されている場合、周辺機器は動作しません。 • 外部機器の別のUSBポートに差し替えてみてください。 • モニターの別のUSBポートに差し替えてみてください。 • 外部機器を再起動してみてください。 • 直接外部機器と周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。 • ご使用の外部機器およびOSがUSBに対応しているかご確認ください（各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください）。 • ご使用のUSB 3.1 Gen 1ホストコントローラーによっては、接続したUSB機器を正しく認識できない場合があります。各メーカーが提供する最新のUSB 3.1 Gen 1ドライバに更新するか、USB 2.0ポートとモニターを接続してください。 • Windowsをご使用の場合、外部機器に搭載されているBIOSのUSBに関する設定をご確認ください（詳細は外部機器の取扱説明書を参照してください）。
3. 音声を出不せない	<ul style="list-style-type: none"> • この製品はスピーカーが搭載されていません。

第 10 章 ご参考に

10-1. 取付器具に取り付ける

この製品はスタンドを取り外して、取付器具に取り付けて使用できます。

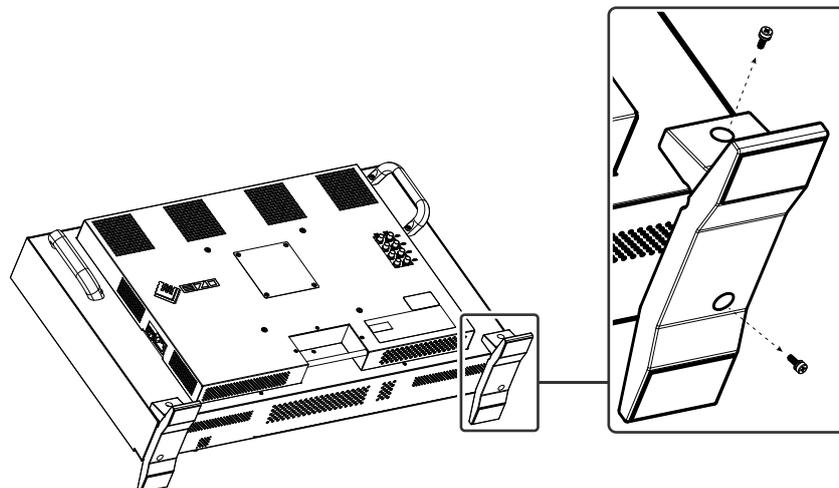
注意点

- ・ 取り付けの際は、取付器具の取扱説明書の指示に従ってください。
- ・ 次の点をご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。
 - 取付部のねじ穴間隔：200 mm×200 mm
 - 許容質量：モニター本体の質量とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること
- ・ 締め付けトルクを必ずお守りください。締め付けが適切でない場合、取り付け部分が破損し、けがや故障の原因となります。
- ・ 表示面は角度をつけずに垂直になるように設置してください。
- ・ ケーブル類は、取付器具を取り付けた後に接続してください。
- ・ 取り付けは必ず2名以上でおこなってください。
- ・ モニターおよび取付器具は重いため、落としたりするとけがや故障の原因になります。
- ・ 定期的になじの締め付けを確認してください。締め付けが不十分な場合、モニターが外れ、けがや故障の原因となります。

1. 液晶パネル面が傷つかないように、また、突出した部分（内蔵キャリブレーションセンサーと調整ダイヤル）にモニターの重さがかからないように注意して、安定した台などに液晶パネル面を下に向けて置きます。

2. スタンド部分を取り外します。

スタンド部分を固定しているねじを外し、左右のスタンド部分を取り外します。



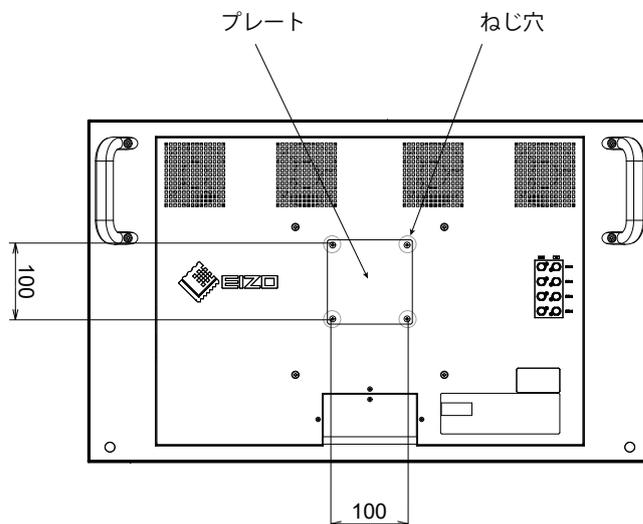
3. 背面のプレートを取り外します。

プレートを固定しているねじを外し、プレートを取り外します。

注意点

- ・ プレートとねじは必ず取り外してください。取付器具が正しく設置できない可能性があります。
- ・ 取り外したプレートとねじは取付器具の取り付けには使用しません。

単位：mm



4. 200 mmピッチのねじ穴4箇所のねじを取り外します。

注意点

- ・ ここで取り外したねじは、取付器具の取り付けには使用しません。別途、市販のねじをご用意ください。

5. 200 mmピッチのねじ穴4箇所に、市販のねじで取付器具を固定します。

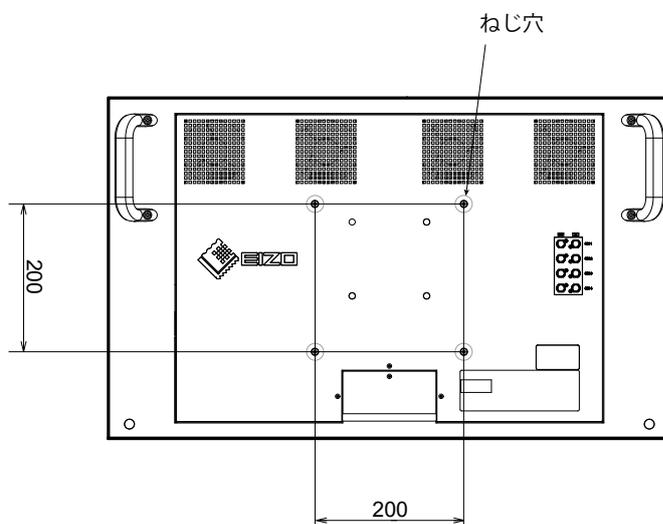
ねじ：M6ねじ

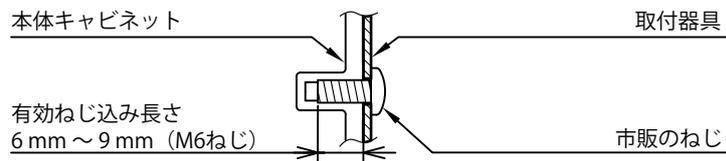
締め付けトルク：2.0 N・m～2.5 N・m

注意点

- ・ 100 mmピッチのねじ穴には取付器具を取り付けないでください。モニターが破損し、けがや故障の原因となります。

単位：mm

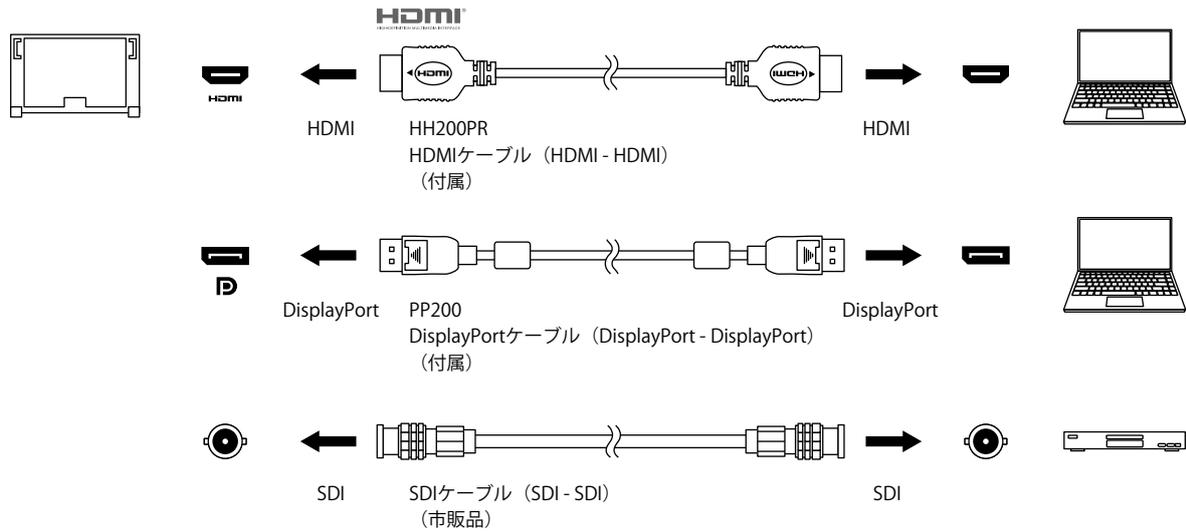




10-2.複数の外部機器を接続する

この製品は、複数の外部機器を接続し、切り替えて表示することができます。

接続例



参考

SIGNAL

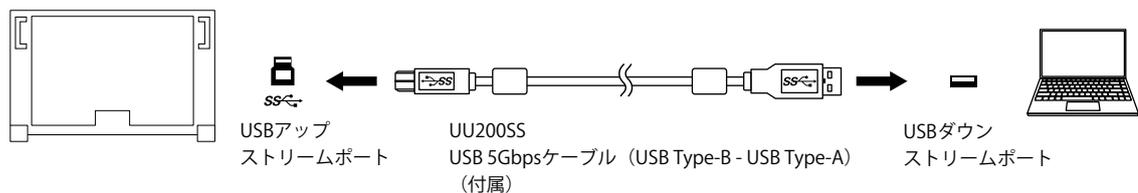
- モニター前面の  (SIGNAL) ボタンを押すたびに入力信号が切り替わります。詳細は、「2-1.入力信号を切り替える」(P.12) を参照してください。

10-3.USBハブ機能の使用方法

この製品はUSBハブを搭載しています。USB対応の外部機器に接続することにより、この製品がUSBハブとして機能し、USBに対応している周辺機器と接続できます。

● 接続方法

1. USB対応の外部機器のUSBダウンストリームポートとモニターのUSBアップストリームポートをUSBケーブルで接続します。
モニターのUSB Type-B コネクタの位置については、「背面」(P.10)を参照してください。



2. USB対応の周辺機器をモニターのUSBダウンストリームポートに接続します。

■ 注意点

- 使用する外部機器、OSおよび周辺機器によっては動作しない場合があります。各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください。
- モニターが省電力モードの場合も、USBダウンストリームポートに接続している機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、省電力モードであっても接続される機器によって変化します。
- 主電源スイッチオフ時、USBダウンストリームポートに接続されている機器は動作しません。
- 「本体設定」の「USB CHARGE ポート」が「充電専用」に設定されている場合、ポートに周辺機器を接続しても動作しません。
- 「USB CHARGE ポート」の設定を切り替える前に、モニターに接続しているすべての周辺機器と外部機器との通信を終了してください。設定を切り替えるときに、すべての通信が一時的に遮断されます。

■ 参考

- この製品はUSB 3.1 Gen 1に対応しています。周辺機器をUSB 5Gbpsケーブルで接続すると、高速のデータ通信が可能になります。
- USBダウンストリームポートのポートは急速充電にも対応しています。短時間でスマートフォンやタブレットを充電することができます。（「USB CHARGE ポート」(P.32)参照）

10-4.仕様

液晶パネル	種類	IPS（アンチグレア）
	バックライト	広色域LED
	サイズ	78.9 cm（31.1）型
	解像度	4096ドット×2160ライン
	表示面積（横×縦）	698.0 mm×368.1 mm
	画素ピッチ	0.170 mm×0.170 mm
	表示色	約10億7374万色：10-bit対応（24-bit LUT）
	視野角（水平 / 垂直、標準値）	178° / 178°
	最大輝度（標準値）	1000 cd/m ²
	コントラスト比（標準値）	1,000,000：1
	応答時間（標準値）	黒→白→黒：20 ms 中間階調域：10 ms
	色域表示（標準値）	DCIカバー率 99 %、NTSC比 109 %
映像信号	入力端子	HDMI×1：8 bit、10 bit、12 bit対応※1（HDCP対応） DisplayPort×1：8 bit、10 bit対応（HDCP対応） SDI（12G / 6G / 3G / HD-SDI）×1：10 bit、12 bit対応 SDI（3G / HD-SDI）×3：10 bit、12 bit対応 ※1 画面表示は最大10 bitになります。
	出力端子	SDI（12G / 6G / 3G / HD-SDI）×1：10 bit、12 bit対応 SDI（3G / HD-SDI）×3：10 bit、12 bit対応
	水平走査周波数	HDMI：15 kHz～136 kHz DisplayPort：25 kHz～137 kHz
	垂直走査周波数	23 Hz～61 Hz（720×400時：69 Hz～71 Hz）
	フレーム同期モード	23.75 Hz～30.25 Hz、47.5 Hz～60.5 Hz
	ドットクロック（最大）	HDMI：600.0 MHz DisplayPort：598.3 MHz
USB	ポート	アップストリーム×1 ダウンストリーム×3（  ポートは急速充電に対応）
	規格	USB Specification Revision 3.1 Gen 1 USB Battery Charging Specification Rev.1.2
	通信速度	5 Gbps（スーパースピード）、480 Mbps（ハイスピード）、 12 Mbps（フルスピード）、1.5 Mbps（ロースピード）
	供給電流	ダウンストリーム：最大900 mA/2ポート ダウンストリーム（  ポート）： 通常 最大1.5 A/1ポート、充電専用 最大2.6 A/1ポート
電源	電源入力	AC100 - 240 V±10 %、50/60 Hz 4.70 - 2.00 A
	最大消費電力	463 W以下
	省電力時消費電力	1.2 W以下 （互換モード：オフ、USB CHARGE ポート：通常、USB機器非接続時）
	待機時消費電力	1.0 W以下 （互換モード：オフ、USB CHARGE ポート：通常、USB機器非接続時）
機構	外観寸法（遮光フード非装着）	757 mm×488 mm×208 mm（幅×高さ×奥行）
	質量（遮光フード非装着）	約26.5 kg
	質量（モニター部）	約25.2 kg
動作環境条件	温度	0°C～30°C
	湿度	20 %～80 %（R.H.、結露なきこと）
	気圧	540 hPa～1060 hPa

輸送/保存環境条件	温度	-20°C~60°C
	湿度	10%~90% (R.H.、結露なきこと)
	気圧	200 hPa~1060 hPa

● オプション

オプション品に関する最新情報は、当社のWebサイトを参照してください。www.eizo.co.jp

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing, LLCの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

DisplayPortコンプライアンスロゴ、VESAはVideo Electronics Standards Associationの登録商標です。

SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。



USB Power Delivery Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の商標です。



DICOMは、National Electrical Manufacturers Associationが所有する、医用情報のデジタル通信に関する規格の登録商標です。

Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

ThunderboltはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AdobeはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、macOS、Mac OS、OS X、Macintosh、ColorSyncはApple Inc.の登録商標です。

ENERGY STARは米国環境保護庁の米国およびその他の国における登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、CuratOR、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorEdge Tablet Controller、ColorNavigator、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO Monitor Configurator、EIZO ScreenSlicer、G-Ignition、i-Sound、Quick Color Match、RadiLight、Re/Vue、SafeGuard、Screen Administrator、Screen InStyle、ScreenCleaner、UniColor ProはEIZO株式会社の商標です。

その他の会社名、商品名およびロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ライセンス

この製品上で表示される文字には、リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が制作したビットマップフォントを使用しています。

アフターサービス

この製品のサポートに関してご不明な場合は、別紙「お客様ご相談窓口のご案内」に記載の窓口にお問い合わせください。

保証書について

この製品の保証書はセットアップガイドにあります。必要事項をご記入の上、購入日が分かる書類（レシートなど）とともに保管してください。

修理を依頼されるとき

保証期間中の場合

保証書の規定に従い、修理または交換をさせていただきます。

保証期間を過ぎている場合

修理範囲（サービス内容）、修理費用の目安、修理期間、修理手続きなどを説明いたします。

修理を依頼される場合にお知らせいただきたい内容

- ・ お名前、ご連絡先の住所、電話番号 / FAX番号
- ・ お買い上げ年月日、販売店名
- ・ 製品名、製造番号（製造番号は、本体の背面部のラベルに表示されている8桁の番号です。例：S/N 12345678）
- ・ 使用環境（コンピュータ / グラフィックスボード / OS、システムのバージョン / 表示解像度など）
- ・ 故障または異常の内容（できるだけ詳細に）
- ・ エラーコード（画面に表示された場合）

製品回収、リサイクルシステムについて

パソコン及びパソコン用モニターは「資源有効利用促進法」の指定再資源化製品に指定されており、メーカーは自主回収及び再資源化に取り組むことが求められています。当社は、使用済みモニターの回収、リサイクル体制を構築しており、お客様がこの製品をご使用後に廃棄する際は次の要領でお引き取りしています。なお、詳細な情報については、当社のWebサイトもあわせて参照してください。

(www.eizo.co.jp)

法人のお客様

この製品は、法人のお客様が使用後産業廃棄物として廃棄される場合、有償で一般社団法人「パソコン3R推進協会」がお引き取りいたします。当社のWebサイトよりお申し込みください。

(www.eizo.co.jp)

個人のお客様

・ PCリサイクルマークの無償提供について

この製品は、PCリサイクル対象製品です。当社では、この製品をご購入いただいた個人のお客様にPCリサイクルマークを無償でご提供しております。ご購入後すぐに、当社のWebサイトよりお申し込みください。

(www.eizo.co.jp)

マークは本体背面部のラベルの近くに貼り付けてください。

一般社団法人 パソコン3R 推進協会内 パソコンリサイクル受付センター

EIZO Webサイト：www.eizo.co.jp/support/recycle/personal/index.html

※「PCリサイクルマーク申込」からお入りください。

(回収担当窓口は、一般社団法人 パソコン3R 推進協会内 パソコンリサイクル受付センターにて対応いたします。)

申し込みには、本体の背面部のラベル上に記載されている製品名と製造番号が必要となります。

・ PCリサイクルマークについて



個人のお客様が、このマークが付いた当社製品の回収を一般社団法人 パソコン3R推進協会内 パソコンリサイクル受付センターにご依頼いただいた場合は、お客様に料金を負担いただくことなく回収、再資源化いたします。

・ お問い合わせ

本件に関するお問い合わせは、一般社団法人 パソコン3R推進協会内 パソコンリサイクル受付センターまでお願いいたします。

一般社団法人 パソコン3R 推進協会内 パソコンリサイクル受付センター

電話：044-540-0576

月曜日～金曜日（祝日および同センター指定の休日を除く）10：00～17：00

